

練馬子ども議会報告書



令和5年度（2023年度）

練馬区

ごあいさつ

練馬区教育委員会

教育長 堀 和夫



練馬区では、中学生が区政や区議会、選挙の仕組み、練馬区についての理解を深めることを目的として、毎年夏に「練馬子ども議会」を実施しています。

今年度は、区立中学校33校、都立中学校1校および私立中学校1校から各1名選出された35名の子ども議員の皆さんから、「環境」、「スポーツ」、「教育ICT」、「読書活動」について、区への政策提言発表がありました。

この提言は、子ども議員の皆さんが約1か月にわたって地域調査を行い、グループ相互に意見交換を行ってまとめ上げた成果です。また、生涯学習センターで行われた政策提言発表においては、多くの傍聴者の前でタブレットパソコンを用いた発表や各グループ間での質疑応答を行うなど、貴重な体験ができたと思います。

子ども議員の皆さんは、この経験を生かし、普段から物事に問題意識を持ち、具体的に考える習慣を身に付け、自分達で解決策を見つける力を磨いていただきたいと思います。

結びにあたり、中学生の皆さんがこれからの練馬区について共に築いていくことを願うとともに、皆さんの更なる成長と今後の活躍を大いに期待しています。

目 次

◆ 令和5年度練馬子ども議会の開催について	2
◆ 令和5年度練馬子ども議会子ども議員名簿	4
◆ 練馬子ども議会が開催されるまでの経緯	5
◆ グループ紹介	11
◆ Keep Our Nature 豊かな自然を守り隊	12
◆ Let' s enjoy sports together ～誰もが楽しめる環境創り～	14
◆ I (いい) C (環境) T (タブレット)	16
◆ 若人こそ本を！～Let' s 読書！～	18
◆ 練馬子ども議会開会宣言	21
◆ 意見交換会	25
◆ 政策提言発表	35
◆ 「中高生に図書館に来てもらうにはどうしたらいいのかについて」	38
若人こそ本を！～Let' s 読書！～ グループ	
◆ 「教育 ICT について」	41
I (いい) C (環境) T (タブレット) グループ	
◆ 「練馬区のゼロカーボンシティの実現を1秒でも早くするために」	45
Keep Our Nature 豊かな自然を守り隊 グループ	
◆ 「みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち」	49
Let' s enjoy sports together ～誰もが楽しめる環境創り～ グループ	
◆ 会議録署名	61
◆ 資料	
◆ 令和5年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票	64
◆ 子ども議員へのアンケート集計結果	68
◆ 練馬子ども議会プロジェクトチーム (PT)について	74

令和5年度練馬子ども議会の開催について

1 目的

(1) 区政に関する意見の聴取

中学生が日頃疑問に思っていること、子ども議員として希望や意見などを表明する場を提供するとともに、区政に反映させる機会とする。

(2) 区政や区議会、選挙の仕組みについての学習

子ども議会を経験することにより、区政や区議会の仕組みを学習するとともに、選挙の仕組みについて理解を深め、区政への関心を高める機会とする。

2 実施内容

(1) 開催期間

令和5年7月1日（土）～令和5年8月3日（木）

(2) 開催場所

区役所地下多目的会議室、議場、全員協議会室、生涯学習センターホール等

(3) 子ども議員

区立中学校および国・都・私立中学校生徒

(4) 内容等

ア 学習会（7月1日、21日、25日、31日）

区政および区議会制度、選挙制度、地域調査、政策提言等について学習会（4回）を開催する。

イ 開会宣言・意見交換会（7月31日）

議場にて開会宣言を行う。

全員協議会室にて政策提言（案）を発表し、子ども議員間で意見交換を行う。

ウ 政策提言発表（8月3日）

区に対して政策提言を行う。

エ 報告書

練馬子ども議会の報告書を作成し、区内小中学校等に配布する。

3 子ども議員の推薦および政策提言発表等の周知

(1) 子ども議員の推薦

区立中学校（全 33 校）、区内の国・都・私立中学校（6 校）に子ども議員の推薦を依頼する。

(2) 子ども議員の決定

区立中学校から 33 名、都立中学校 1 名、私立中学校 1 名の推薦があり、合計 35 名の子ども議員が決定。

子ども議員は、調査、提案したいテーマごとに、1 グループ 8～9 名で構成する 4 つのグループに分かれる。

所属するグループの決まった子ども議員は、調査、提案したい内容について事前学習を行い、学習シートを提出する。

(3) 政策提言発表・意見交換会の周知

区報（7 月 21 日号）、区ホームページおよび教育だよりにより周知する。

令和5年度練馬子ども議員名簿

グループ名	テーマ	氏名	ふりがな	性別	中学校名	学年
Keep Our Nature 豊かな自然を守り隊	練馬区の ゼロカーボンシティの実現を 1秒でも早くするために	宮澤 風太	みやざわ ふうた	男	中村中学校	2
		北野 莉菜	きたの りな	女	練馬東中学校	2
		熊谷 大輝	くまがい だいき	男	田柄中学校	2
		三津井 翔大	みつい しょうた	男	石神井東中学校	2
		海東 壱季	かいとう いつき	男	石神井南中学校	2
		村上 らん	むらかみ らん	女	三原台中学校	2
		吉井 美和	よしい みわ	女	大泉学園中学校	2
		中嶋 実侘	なかじま みれい	女	私立富士見中学校	3
Let's enjoy sports together ～誰もが楽しめる環境創り～	みどりの中で誰もが スポーツを楽しめるまち	志田 悠晟	しだ はるせ	男	開進第一中学校	3
		山中 祥子	やまなか さちこ	女	開進第三中学校	2
		柿沼 博美	かきぬま ひろみ	男	開進第四中学校	2
		片山 虎太郎	かたやま こたろう	男	北町中学校	2
		宮下 万結子	みやした まゆこ	女	練馬中学校	2
		窪崎 舜	くぼさき しゅん	男	光が丘第三中学校	2
		宮寄 琥大朗	みやぎさき こたろう	男	石神井中学校	2
		杉浦 至	すぎうら いたる	男	上石神井中学校	2
		加藤 清愛	かとう せいな	女	大泉西中学校	3
I(いい)C(環境)T(タブレット)	教育ICTについて	浅田 智穂	あさだ ちほ	女	旭丘中学校	2
		上村 真緒	かみむら まお	女	豊玉中学校	2
		長 和輝	おさ かずき	男	豊玉第二中学校	2
		門脇 弘和	かどわき ひろかず	男	開進第二中学校	3
		米山 英輝	よねやま えいき	男	石神井西中学校	2
		竹村 晶	たけむら しょう	女	南が丘中学校	3
		仲居 杏奈	なかい あんな	女	大泉中学校	2
		尾田 七海	おだ ななみ	女	大泉北中学校	2
		正村 幸大	まさむら こうだい	男	八坂中学校	2
若人こそ本を！ ～Let's読書！～	中高生に図書館に来てもらう にはどうしたらいいのかについて	福井 結	ふくい ゆい	男	貫井中学校	2
		森川 修	もりかわ しゅう	男	豊溪中学校	2
		小澤 七菜	おざわ なな	女	光が丘第一中学校	2
		太田 圭亮	おおた けいすけ	男	光が丘第二中学校	3
		伊賀 美雲	いが みくも	女	谷原中学校	3
		高野 怜生	たかの れお	男	大泉第二中学校	2
		鈴木 聖菜	すずき せな	女	小中一貫教育校大泉桜学園	1
		寺澤 こと子	てらざわ ことこ	女	関中学校	2
		高橋 歩花	たかはし ほのか	女	都立大泉高等学校附属中学校	2

練馬子ども議会が開催されるまでの経緯

第1回学習会 **7月1日(土)** 10:00～16:00<区役所多目的会議室>
32名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【全体会】

区議会・選挙制度について

区政や区議会の仕組み、選挙権や選挙の種類、若年層の投票率などを学習し、投票箱の組み立てを体験しました。

練馬子ども議会について

練馬子ども議会のあらましについて説明を受けました。

政策提言について

政策形成の方法、提言書の作成について説明を受けました。

地域調査について

地域調査のための調査場所、インタビュー内容など具体的な方法について説明を受けました。



【グループ別学習会】

- ① 自己紹介を行いました。
- ② グループ長と書記を決めました。
- ③ 事前学習シートを参考に話し合い、政策提言発表のテーマを決めました。
- ④ 第2回学習会で行う地域調査の調査場所および調査内容を決めました。

第2回学習会

7月21日(金)

10:00～16:00

31名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【地域調査】

地域の人たちの話を聴くなど、地域の事象を実際に目で見て課題を捉える。

① Keep Our Nature 豊かな自然を守り隊 グループ

練馬区のゼロカーボンシティ実現に向けた取組について学習するため、練馬清掃事務所、豊玉リサイクルセンターに行き、ごみの削減やリサイクルについて聞き、インタビューしてきました。



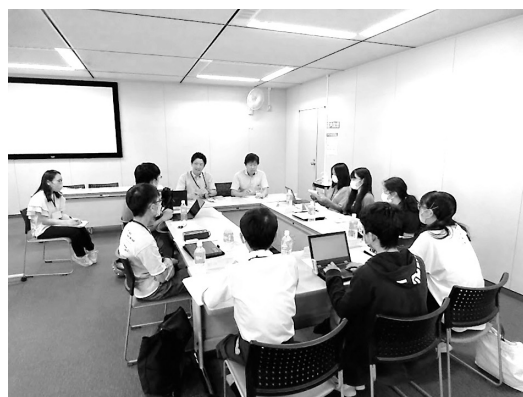
② Let's enjoy sports together～誰もが楽しめる環境創り～ グループ



体育館の利用について学習をするため、光が丘体育館に行き、職員から館内のバリアフリー化の推進や体育館の利用状況等を聞き、インタビューしてきました。

③ I (いい) C (環境) T (タブレット) グループ

教育 ICT について学習するため、教育施策課の職員にドングルなど機器の使用状況や区の取組状況等を聞き、インタビューしてきました。



④ 若人こそ本を！～Let's 読書！～ グループ



中高生に図書館に来てもらうにはどうしたらいいのかについての学習をするため、光が丘図書館に行き、職員から図書館を利用しやすくする取組等を聞き、インタビューしてきました。

【グループ別学習会】 地域調査のまとめ

地域調査で、実際に見て、聞いて、感じたこと、わかったことをタブレットを活用し、みんなで共有しました。



第3回学習会

7月25日(火)

10:00～16:00<区役所 19 階 1902 会議室>

34 名の子ども議員が出席しました。

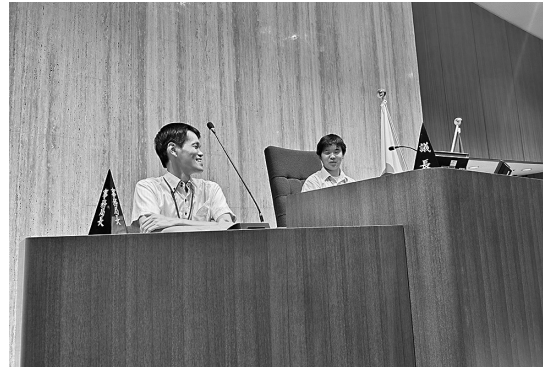
(主な実施内容)

【全体会】

議長・会議録署名議員の選出

立候補者を募り、議長・会議録署名議員を決めました。

【グループ別学習会】



第2回学習会で話し合った内容をまとめ、政策提言発表で提案する原稿を作成しました。また、練馬子ども議会開会宣言・意見交換会のリハーサルを行いました。

第4回学習会

7月31日(月)

9:00～16:00

<本会議場・全員協議会室・区役所多目的会議室>

35 名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【全体会】 9:00～10:00

練馬子ども議会開会宣言・意見交換会の流れを確認しました。

【練馬子ども議会開会】 10:15～10:20



議場で開会宣言し、会議録署名議員の指名、会期・議題を決定しました。

【意見交換会】 10:30～12:00

各グループが政策提言（案）を発表し、意見を交換しました。

※傍聴

当日は一般の方も傍聴することができます。子ども議員の保護者など9名の方が傍聴しました。



【グループ別学習会】 13:00～17:00



意見交換会後に、質疑応答のまとめや改めて考えたことなどをグループ内で話し合いました。

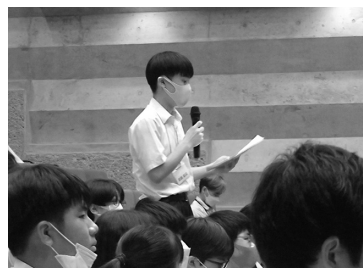
政策提言発表

8月3日（木）

13:30～15:30＜生涯学習センター＞

35名の子ども議員が出席しました。

生涯学習センターにおいて、区に対してグループで政策提言発表と質疑応答を行いました。各グループの発表について教育長から講評を受けました。



※傍聴

当日は一般の方も傍聴することができます。子ども議員の保護者など42名の方が傍聴しました。

グループ紹介



Keep Our Nature

豊かな自然を守り隊グループ

「練馬区のゼロカーボンシティの実現を1秒でも早くするために」



グループメンバー

海東 壱季（石神井南中学校） 北野 莉菜（練馬東中学校） 熊谷 大輝（田柄中学校）
中嶋 実伶（私立富士見中学校） 三津井 翔大（石神井東中学校）
宮澤 風太（中村中学校） 村上 らん（三原台中学校） 吉井 美和（大泉学園中学校）

P T

岩方 博行（環境部環境課地球温暖化対策係長）
皆川 萌美（環境部清掃リサイクル課清掃事業係）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：練馬区のゼロカーボンシティの実現を1秒でも早くするために

調査目的 現状や課題についてのお話を聞き、
解決策につなげるため。

調査場所 練馬清掃事務所

豊玉リサイクルセンター

調査内容・方法

インタビューをして、ごみの削減やリサイクル
について調査する。

区の現状（すでに実施しているか）

- ・ごみの出し方に問題がある。（水切り、分別など）
- ・使わなくなったアクリル板は捨てずに保管されている。
- ・食器などのリデュース。（安く売っている。）
- ・資源循環センターで手作業で分別。
- ・生ごみを灰にしてセメントにし、町づくりにも役立
ている。
- ・燃やすための熱を利用した、サーマルリサイクル。

課題・問題点

- ・埋立処分場を長く使っていくために、ごみの分別方法をしっかりと理解する。
- ・アクリル板の再利用方法を考えていくべき。
- ・ごみの中にもまだ資源が残っているので、どのように減らすかを考える。
- ・ごみの重量、二酸化炭素の排出量をともに減らすために、生ごみの水分を切らなくてはならない。

解決策の検討項目

- ・ごみの分別方法を情報発信し、区民の方々に理
解してもらう必要がある。
- ・区民のニーズに応え、再利用法を決める。
- ・資源に含まれるものは何があるのかを知って
もらう必要がある。
- ・何のごみにどれくらいの水を含むのかを理解
してもらう必要がある。

解決するための方法・手段

- ・人の目につきやすい公共施設や乗り物など、み
んなが必ず目にするところにチラシやポスター
を貼る。
- ・Google フォームで区民にアンケートを取り、再
利用案を募る。
- ・小学生の環境学習や大人を対象としたイベント
で実際に水を含んだものとそうでないものを持っ
てもらい実感してもらう。

自分たちができること

- ・朝礼などで詳しく説明し、ごみの削減を呼び掛けたりする。
- ・三者面談の時に先生にチラシを渡してもらう。
- ・生徒会新聞などで周知する。

Let's enjoy sports together

～誰もが楽しめる環境創り～グループ

「みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち」



グループメンバー

柿沼 博美（開進第四中学校） 片山 虎太郎（北町中学校） 加藤 清愛（大泉西中学校）
窪崎 舜（光が丘第三中学校） 志田 悠晟（開進第一中学校）
杉浦 至（上石神井中学校） 宮崎 琥大朗（石神井中学校） 宮下 万結子（練馬中学校）
山中 祥子（開進第三中学校）

P T

高野 直子（地域文化部スポーツ振興課事業係長）
内野 清行（地域文化部スポーツ振興課振興係長）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

Let's enjoy sports together ～誰もが楽しめる環境創り～ グループ

テーマ：みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち

調査目的 体育館の利用実態を調べるため。

調査場所 光が丘体育館

調査内容・方法

職員や総合型スポーツクラブの方にインタビューを行い、施設の現状について調査する。

区の現状（すでに実施しているか）

- ・ SNS を利用して広報しているが、あまり効果がない。
- ・ 館内はバリアフリーになっているが、周辺環境が整っていないため、障がい者の方の利用は少ない。
- ・ 個人利用もできるが、人気ですぐ埋まる。
- ・ 体育館だけの活動には限界があり、区との協力が必要。

課題・問題点

- ・ SNS を利用しているが、効果があまりない。
- ・ 駅など周辺が整っていないため、障がい者の方の利用が少ない。
- ・ 光が丘体育館だけの活動には限界があり、区との協力が必要になる。

解決策の検討項目

- ・ SSC の広報の効果を高める。
- ・ 障がい者の利用を増やす。
- ・ 光が丘体育館と行政の協力を促進。
- ・ 使用している年齢層の偏りをなくす。

解決するための方法・手段

- ・ ニューススポーツの用具貸出。
- ・ 気軽にできる場所づくり。
- ・ 親子プログラム、学校連携企画。
- ・ 特定の年齢層向けの企画の実施。
- ・ 保育園を招いて楽しさを伝える。

解決するための方法・手段

- ・ 体育館のいいところを集めた動画の作成、拡散。
- ・ 授業内で講師を招き、意義を実感してもらう。
- ・ 学校にポスターを貼る。
- ・ ボランティアの簡単さをアピールする。
- ・ 運動の効果についてのチラシを配る。
- ・ 送迎バス、個別指導で行う。
- ・ 障がい者利用施設にポスターを貼る。
- ・ 指導者を招く。ルールが簡単なスポーツをやる。
- ・ 支援学級の方を中心に企画。
- ・ 各 SSC と協力。家でできる運動の推進。

自分たちができること

- ・ ポスター、チラシの作成。・ ボランティアを積極的に行う。・ 家でできる運動を考える。
- ・ 友達に伝える。誘う。・ どんな人でもできるルールを考える。・ 学校代表として呼びかける。
- ・ 支援学級があるところに広げる。・ ニューススポーツ用具を借りる。
- ・ 家族で体育館の個人利用を試してみる。

I (いい) C (環境) T (タブレット) グループ

「教育 ICT について」



グループメンバー

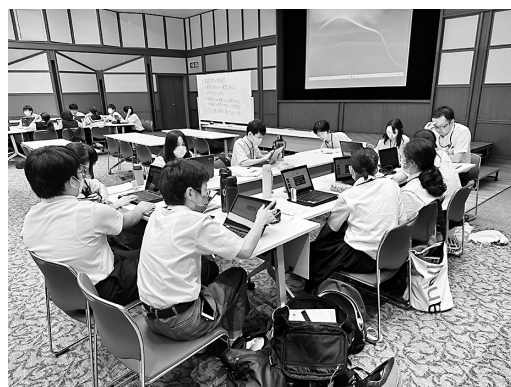
浅田 智穂 (旭丘中学校) 長 和輝 (豊玉第二中学校) 尾田 七海 (大泉北中学校)
門脇 弘和 (開進第二中学校) 上村 真緒 (豊玉中学校) 竹村 晶 (南が丘中学校)
仲居 杏奈 (大泉中学校) 正村 幸大 (八坂中学校) 米山 英輝 (石神井西中学校)

P T

柏木 美和 (教育振興部教育施策課教育 ICT 環境整備係)
河合 千秋 (教育振興部教育施策課教育 ICT 環境整備係)



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

I (いい) C (環境) T (タブレット) グループ

テーマ：教育 ICT について

調査目的 ICT を適切に利用し、学習環境を整えるため。

調査場所 練馬区役所

調査内容・方法

教育施策課の職員にインタビューをして、生徒用タブレットなど ICT 機器の利用実態を調査する。

区の現状 (すでに実施しているか)

- ・週に 1 回程度 ICT 支援員を派遣している。
- ・アンケートなどを実施し、各学校の取り組みを調査している。
- ・小中連携で勉強方法の共有などを行っている。
- ・e-ライブラリなどで自習の仕組みが整えられている。
- ・Google Workspace を導入している。
- ・ICT 機器がすでに配備されている。
- ・ドングルを利用してネットワークに接続している。

課題・問題点

- ・ドングルだと接続が遅く、Wi-Fi にすると一斉接続に苦しむ。
- ・教員に ICT 指導が足りていないため上手く使えない。(学校間で利用状況の差がある)
- ・他校の人との関わりやキャリア教育が少ない。(タブレットが活用できていない)
- ・フィルタリングが強すぎるため授業に支障がでる。

解決策の検討項目

- ・ドングルは壊れやすいので他のものに変える。
- ・教員や生徒に ICT の利用方法などを教える機関をつくる。
- ・キャリア教育や他校の人と関われるような環境をつくる。
- ・TPO に合わせたフィルタリングの強度を検討する。

解決するための方法・手段

- ・Wi-Fi を設置し、Wi-Fi がない所ではドングルの貸出申請ができるようにする。
- ・ICT 委員会などの組織を学校でつくる。(定期的に各校の委員会同士で情報共有できる場を設ける)
- ・meet や職業体験ソフトを使う。
- ・教員にフィルタリング解除権限を与えたり、時間帯によって強度を設定できるようにしたりする。

自分たちができること

- ・使い方を説明するスライドやポスターなど作る。
- ・教員が ICT を使いやすいような雰囲気づくりをする。(生徒間での口コミなど)
- ・生徒会主体で ICT 委員会や ICT 係を設置できるようにする。
- ・教員に規制解除を頼む→教育委員会に伝達してもらう。
- ・生徒会などが使い方を説明する講習会を開く。

若人こそ本を！ ～Let's 読書！～グループ

「中高生に図書館に来てもらうにはどうしたらいいのかについて」

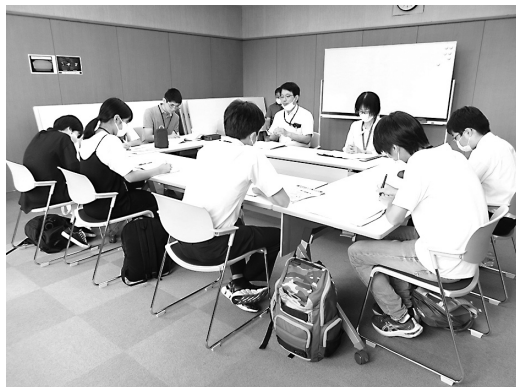


グループメンバー

伊賀 美雲 (谷原中学校) 太田 圭亮 (光が丘第二中学校)
小澤 七菜 (光が丘第一中学校) 鈴木 聖菜 (小中一貫教育校大泉桜学園)
高野 怜生 (大泉第二中学校) 高橋 歩花 (都立大泉高等学校附属中学校)
寺澤 こと子 (関中学校) 福井 結 (貫井中学校) 森川 修 (豊浜中学校)

P T

柴崎 なつき (教育振興部光が丘図書館事業統括係)
和田 洵 (教育振興部光が丘図書館子供事業統括係)



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

若人こそ本を！～Let's 読書！～ グループ

テーマ：中高生に図書館に来てもらうにはどうしたらいいのかについて

調査目的 図書館についてより理解するため。

調査場所 光が丘図書館

調査内容・方法

インタビューをして、図書館で行っている取り組みや魅力を調査する。

区の現状（すでに実施しているか）

- ・図書館を利用しやすいような配置にされている。
- ・本を読まない人に図書館に来る機会をつくり、少しでも本に触れる機会をつくっている。
- ・幅広い層の人が利用しやすい。
- ・本以外の物も取り扱っている。
- ・本の循環（リサイクル）

課題・問題点

- ・そもそも図書館に来てもらえない。
- ・図書館のイベントを知ってもらえない。

解決策の検討項目

- ・図書館のPRの機会を増やす。
- ・子供のうちから読書に親しむ。
- ・学校で紹介する。

解決するための方法・手段

- ・SNSの活用。
→学校のホームページで宣伝する。
- ・図書委員会に協力してもらう。
- ・図書館の魅力などを紹介する講習を行う。
- ・ブックスタートの推進。

自分たちができること

- ・生徒会などと協力してPR動画を作る。
- ・ブックカバー、しおり作り。
- ・生徒会新聞などの手紙で生徒会がおすすめしている本の紹介。
- ・学校で本を回収しリユースする。→その本にしおりを挟む。

練馬子ども議会

開会宣言



令和5年度 練馬子ども議会開会宣言座席表(議場)

青少年 課長	議長(杉浦)
-----------	--------

演壇

若人こそ本を！
～Let's 読書～
グループ

I(いい)C(環境)T(タブ
レット)
グループ

Let's enjoy sports
together
～誰もが楽しめる
環境創り～
グループ

Keep Our Nature
豊かな自然を守り隊
グループ

	福井	伊賀	寺澤
	森川	高野	小澤
	太田	鈴木	高橋

浅田	仲居	志田	宮寄
上村	尾田	柿沼	山中
門脇	正村	片山	杉浦
竹村	長	宮下	加藤
	米山	窪崎	

宮澤	三津井	吉井	
北野	海東	中嶋	
熊谷	村上		

練馬子ども議会・開会宣言

令和5年7月31日（月） 10:15～10:20

青少年課長

ただいまの出席議員は、35名でございます。

議長

本日の議長を務めます、練馬子ども議員、
上石神井中学校2年、杉浦至です。よろしくお願ひします。
ただいまから、練馬子ども議会を開会します。
直ちに、本日の会議を開きます。



杉浦 至 議長

会議録署名議員の指名

議長

まず、会議録署名議員を議長より指名します。

吉井美和議員、門脇弘和議員、柿沼博美議員、小澤七菜議員、以上4名の議員に願ひします。

次に、練馬子ども議会の会期についてを議題とします。

子ども議会の会期は、本日および8月3日の2日間としたいと思ひますが、これにご異議ありませんか。

子ども議員

（異議なし）

議長

ご異議なしと認めます。よって、子ども議会の会期は、本日および8月3日の2日間とすることに決定しました。

次に、政策提言について、第1提案「中高生に図書館に来てもらうにはどうしたら良いかについて」、第2提案「教育ICTについて」、第3提案「練馬区のゼロカーボンシティの実現を1秒でも早くするために」、第4提案「みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち」が提出されています。

政策提言につきましては、この際、直ちに意見交換会を開催し付託したいと思ひますが、これにご異議はありませんか。

子ども議員

（異議なし）

議長

ご異議なしと認めます。よって、政策提言につきましては、これから全員協議会室で開催する意見交換会に付託することを決定しました。

以上で、本日の日程は終了しました。

これをもって、散会します。

意見交換会



練馬子ども議会・意見交換会

令和5年7月31日（月） 10:30～12:00

「中高生に図書館に来てもらうにはどうしたらいいのかについて」

若人こそ本を！～Let's読書！～ グループ

質問：「本を回収しリユースする」とありましたが、どのようにしようと考えているのでしょうか。

回答：リユースとは使用しなくなったもののうち、有用なものを再利用するという意味なので、生徒が読まなくなった本を回収し、本によっては幼稚園や保育園に寄付したり、校内で回収した本を自由に読めるスペースを作ったりして、再び本が読んでもらえるようにしようと考えています。



質問：しおりは誰がどのようなものを作るのでしょうか。

回答：しおりは小中学校でデザインを募集し、図書館で作成することを検討してもらいます。

質問：「PR動画の作成」とありましたが、PR動画を何人ぐらいの人が観てくれると考えていますか。

回答：全校朝会やホームルーム時などに流してもらって、全生徒に見てもらおう予定です。

質問：PR動画は具体的にどのようなものなのでしょうか。

回答：図書館の魅力が伝えられるような30秒から1分程度のPR動画を作ろうと考えています。具体的な魅力としては、おすすめの本を紹介するコーナーでは季節ごとに紹介している本が変わることが挙げられます。

質問：図書館のPRは、どのように図書委員会などに協力してもらうのですか。

回答：図書委員会や生徒会に呼びかけて協力してもらいます。

質問：ブックカバーやしおりを作ることで、どのような効果がありますか。

回答：図書館の宣伝を施したデザインのブックカバーやしおりを作成し、配布することで、もらった人や、それを使っている姿を見た周囲の人に図書館の宣伝効果が得られると考えています。

質問：「図書館では本以外のものも扱っている」とありましたが、どのようなものを扱っているのですか。

回答：CDやDVD、紙芝居、布絵本を扱っています。布絵本は地域のボランティアの方々が全て手作業でオリジナル作品のほか、紙の絵本を忠実に再現、作成してくださっています。手触りで形を感じ取れ、紙にはない仕掛けもあり、先端が紙のように尖っていないことから、視覚障害のある方や乳幼児も本に親しむことができます。

質問：「本の循環」とありましたが、それはどのようにして行われているのですか。

回答：古くなった本や貸し出しが少なくなった本を学校図書館や家庭に配り、除籍して新しい本を所蔵するという循環が行われています。

質問：「学校のホームページで宣伝する」とありましたが、学校のホームページをそもそも見ない人にはどう呼びかけるのですか。

回答：学校のホームページで全ての人に伝わるとは考えていません。複数の方法を用いて呼びかけようと考えています。

質問：「本を読まない人が図書館に来る機会をつくっている」とありましたが、どのようにしてそのような機会をつくっているのでしょうか。

回答：新聞、地図など本以外のものの設置や、イベントやクラブ活動による学習発表会の開催で参加の機会をつくっています。

質問：中高生に図書館に来てもらうために、中高生が読みやすい漫画やライトノベルの数を増やしてはどうでしょうか。

回答：現時点でも、たくさんの漫画やライトノベルを図書館に置いています。しかし、人気があり、すぐなくなってしまうというケースがあります。本を増やすには所蔵数の問題などがあります。図書館ごとに所蔵する本の数に特色があり、漫画が多い南大泉図書館、ライトノベルが多い関町図書館などがありますので、漫画やライトノベルが読みたいという方は、ぜひ、南大泉図書館、関町図書館を訪れてみてください。

質問：図書館に来てもらうためにPRするという話があったのですが、インターネット上にPR動画を出しても見てもらえないのではないかと思うのですが、広告等を活用した告知というのは考えているのでしょうか。

回答：「PR動画を広告に活用する」という意見につきましては、参考にさせていただきたいと思います。

「教育ICTについて」

I (いい) C (環境) T (タブレット) グループ

質問：「Wi-Fiを設置し、Wi-Fiがないところでは、 dongleの貸し出し申請ができるようにする」と言っておりましたが、dongleの貸し出し申請というのは、費用がかかるのでしょうか。かかる場合はどのくらいかかるのでしょうか。

回答：費用に関しては、練馬区と業者等の中で決定されることですので私たちには分かりかねますが、ある程度の額はかかると思われま

質問：Wi-Fiが壊れた場合や、工事するときに使えなくなった状況下での代替案はあるのでしょうか。

回答：Wi-Fiが壊れた場合や、工事するときに使えなくなった状況下での代替案につきましては、dongleを貸し出すことがベストだと考えています。

質問：他校の人とのタブレットを使って、どのような交流をすると考えていますか。

回答：ICT関係の交流について考えています。例えば、生徒会活動を行ったり、小中学校間での連携をしたり、部活動間での連携をしたりしたいと考えています。

質問：タブレットを使い、他校の人と関わることは何の目的で行うのですか。

回答：意見交流を通して学校間での格差をなくしたり、練馬区全体でより委員会活動を活性化していくために行います。



質問：「学校にWi-Fiを設置する」とありましたが、「Wi-Fi接続でも学校全体やクラス全体での一斉接続には苦しむ」ということでした。なぜWi-Fiを設置するのでしょうか。また、一斉接続のような不具合が生じてしまった場合、どのように対処するのでしょうか。

回答：なぜ一斉接続に苦しむのにWi-Fiを設置するのかにつきましては、dongleとWi-Fiでの接続を比較したときにWi-Fiの方がメリットが多かったためです。

具体的には、Wi-Fiのほうが通信速度が速いこと、接続が安定していること、通信容量に上限がないことなどです。

一斉接続による不具合を発生させない対策として、教室内で予測されるトラフィック（データ量）にあったような機器等を事前に設置して、通信障害が起こらないようにすることを考えています。万が一、不具合が発生した場合は、一斉接続のタイミングを分散させるなど、各校で臨機応変に対応していただくことを考えています。

質問：dongleの管理はICT委員会が行うのですか。紛失、破損した場合はどのように対処するのですか。

回答：現在は学校と練馬区教育委員会で連携して破損や紛失の対応などの管理をしていますが、ICT委員会等が設立されたのち、そちらに移管することを考えています。

質問：dongleの貸し出しをするのはなぜでしょうか。

回答：家にWi-Fiがない人やWi-Fiが設置されていない場所で使う時に必要になるからです。

質問：職業体験ソフトでキャリア教育は可能なのでしょうか。

回答：職業体験ソフトで全てを賄えるとは考えていませんが、将来の仕事について考える
足がかりにはなると考えています。

質問：I C T委員会は、情報共有のほかに何を行う委員会なのでしょうか。

回答：I C Tを使いやすくする雰囲気づくりやI C Tの使い方を知らない教員、生徒のサ
ポートです。

「練馬区のゼロカーボンシティの実現を1秒でも早くするために」

Keep Our Nature 豊かな自然を守り隊 グループ

質問：ごみの分別方法に関するチラシやポスターを貼るとありましたが、公共施設の中ではなく、ごみ箱に貼ってもらえばよいのではないのでしょうか。

回答：公園など外にあるごみ箱の場合、雨が降った場合、濡れてしまう、破れてしまうといったことがあるので公共施設の中に貼ることにしました。

質問：「学校の朝礼などでごみの削減を呼びかける」とありましたが、どこから出るごみの削減を目的としているのでしょうか。

回答：出されるごみ全ての削減を目的としています。

質問：「大人を対象としたイベント」とありましたがそのイベントに関して人を集める策はあるのですか。

回答：大人を対象としたイベントはリサイクルセンターで実施するため、練馬区報やホームページでの周知、学校やリサイクルセンターでのイベントでチラシを配ってもらうことを想定しています。

質問：アクリル板をリサイクルするということでしたが、具体的にどのようなものにリサイクルすると考えていますか。

回答：キャラクターのアクリルスタンドなどを考えています。他にも区民にアンケートを募り、ニーズに応えた再利用方法を検討していきます。

質問：チラシやポスターは誰が作るのでしょうか。

回答：各学校の美化委員や整備委員などと生徒会が協力して制作していく予定です。

質問：アンケートを作成し、再利用方法を検討するとのことですが、アンケートの集計は誰がやるのでしょうか。

回答：区役所と学校で連携して行います。

質問：イベントで水を含んだものと含んでいないものを持って重さを比較するとありましたが、実際にごみを持つということでしょうか。その場合、衛生面は問題ないのでしょうか。

回答：実際のごみではなく水を含ませたスポンジを袋に入れて持ってもらうので衛生面の問題はありません。スポンジは体験前に水を含ませるので、常に水を含ませている状態を保ちます。

質問：Googleフォームによるアンケートを実施した場合、どれくらい回答がもらえると考えますか。

回答：練馬区には約74万人の人が住んでおり、ごみ集積所が約3万8千か所あります。練馬区の人口の最低でも2割の方に回答してもらいたいため、1つの集積所につき、最低でも3から4人の回答があればよいと考えています。

質問：「Googleフォームでアンケートを取る」ということですが、高齢者や子供など



フォームを使うのがあまり得意でないと考えられる人の意見はどうやって集めるのですか。

回答：最近が高齢者もスマートフォンを扱う方が増えてきているため、中学生以上の人を対象にアンケートを実施します。

「みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち」

Let's enjoy sports together～誰もが楽しめる環境創り～ グループ

質問：SNSの活用では、誰がどれぐらいの期間で動画を作成し、どのような方法で拡散するのですか。

回答：区立体育館の職員の方や、生徒会役員などで作成し、それを学校のホームページなどに載せることを考えています。区内の人に見てもらえればいいので、SNS以外の方法も視野に入れて考えます。

質問：ニュースポーツには、具体的に何が含まれるのでしょうか。その用具を貸し出してほしいという人は一部の人だけではないでしょうか。

回答：練馬区が用具の貸し出しをしているニュースポーツは、グラウンドゴルフやボッチャ、手のひら健康バレーなどがあります。用具の貸出をすることで様々なスポーツに触れてもらうことを目的として考えています。

質問：特定の年齢層に向けた企画とは、具体的にどのようなものですか。また、特定の年齢層向けの企画を実施した場合、偏りが出るのではないのでしょうか。

回答：利用者の多い年齢層は対象にせず、利用者が少ない年齢層、特に若者向けの企画を実施し、偏りを減らしていこうと思います。

質問：誰でもできるルールが簡単なスポーツとは何ですか。



回答：ヨガやボッチャなどはルールがわかりやすいスポーツだと考えます。

質問：送迎バスはどの範囲での送迎を考えていますか。また、お金がかかるのではないのでしょうか。

回答：範囲は練馬区全体を考えております。費用はかかりますが、様々な人がスポーツに触れられる環境をつくる上で必要なものと考えています。

質問：「体育館のいいところを集めた動画を作成、拡散する」とありましたが、ユーザーに拡散されるコンテンツをつくるためにどうしていきますか。SNSを使う場合、どのようなプラットフォームを利用していく方針ですか。

回答：誰もが楽しめるスポーツについてや、バリアフリー環境の充実のついて発信していく方針ですが、時には若い年齢層をターゲットにした話題性のある動画を投稿することも必要かと思います。

質問：体育館のいいところとは具体的に何がありますか。

回答：バリアフリー化が進んでいたり、トレーニングルームやプールといった設備が整っていることです。

質問：スポーツの意義を実感してもらうのは、学校の体育の授業や体育教師の指導で十分なのではないのでしょうか。

回答：障害者スポーツやニュースポーツなど普段の授業ではできないことについての講義

を受けることで、スポーツをより深く知ってもらうことが、スポーツの意義を実感してもらうことに役立つと考えます。

質問：チラシだけでは運動の効果について周知するには限界があると思いますが、他の方法については考えていますか。

回答：限界はあると思います。ですが、体育館の長所を伝えたり、運動の効果を周知するのに役立つことと、まずはできることから積極的に実施することが大切と考えます。

政策提言発表



令和5年度練馬子ども議会政策提言発表 次第

令和5年8月3日（木）13：30～
生涯学習センターホール

政策提言発表

(1) 挨拶

(2) 政策提言発表

提言1 若人こそ本を！～Let's 読書！～ グループ

テーマ「中高生に図書館に来てもらうにはどうしたらいいのかについて」

提言2 I(いい)C(環境)T(タブレット) グループ

テーマ「教育 ICT について」

提言3 Keep Our Nature 豊かな自然を守り隊 グループ

テーマ「練馬区のゼロカーボンシティの実現を1秒でも早くするために」

提言4 Let's enjoy sports together～誰もが楽しめる環境創り～ グループ

テーマ「みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち」

※グループごとに、政策提言発表、質疑応答を行います。

(3) 講評

(4) 閉会

練馬子ども議会・政策提言発表

令和5年8月3日(木) 13:30~15:30

青少年課長

ただいまの出席議員数は35名でございます。

議長

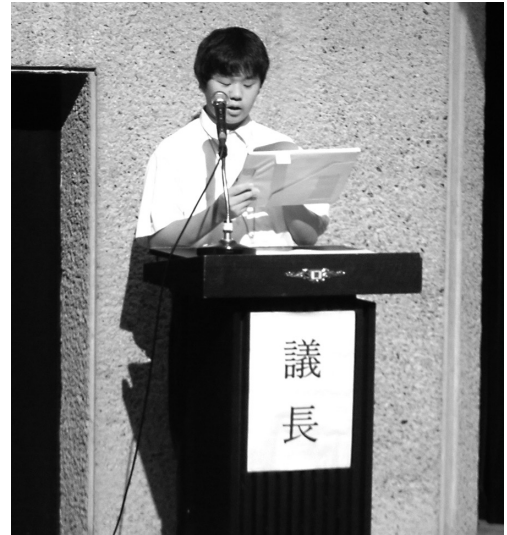
本日の議長を務めます、練馬子ども議員、上石神井中学校2年、杉浦至です。よろしくお願いいたします。

ただいまから、本日の会議を開きます。

これより、令和5年度、練馬子ども議会政策提言発表を議題とします。

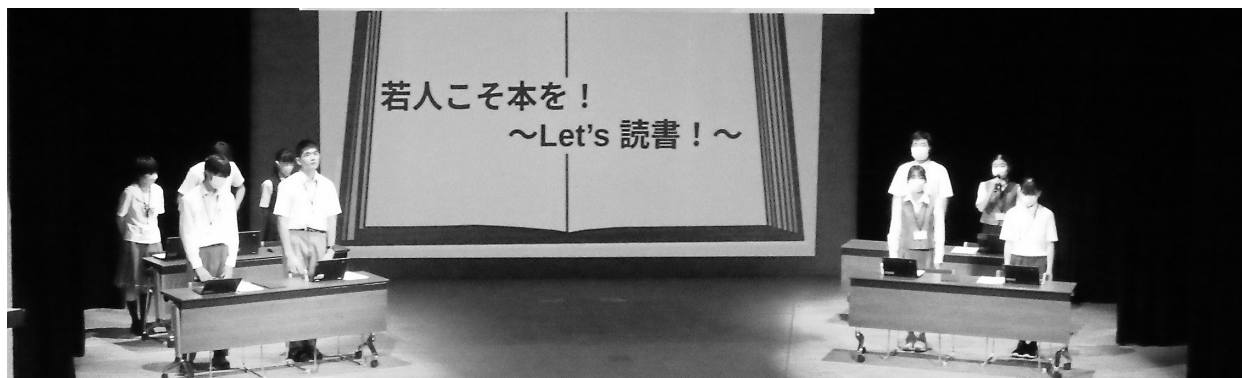
意見交換会での審査の結果、今年度の政策提言は、「中高生に図書館に来てもらうにはどうしたらいいのかについて」、「教育ICTについて」、「練馬区のゼロカーボンシティの実現を1秒でも早くするために」

「みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち」の4つとなりましたので、報告を求めます。順次発言を許可します。



「若人こそ本を！～L e t 's 読書！～」グループ、お願いします。

「中高生に図書館に来てもらうにはどうしたらいいのかについて」 若人こそ本を！～Let's 読書！～ グループ



私たちは、中高生に図書館に来てもらうにはどうすればいいのかについて発言します。

今回、私たちは図書館についてより深く理解するために、練馬区立図書館の統括的役割を担っている光が丘図書館へ行き、光が丘図書館の館長や子供事業統括係長にインタビューをし、各館特有の魅力や図書館に来てもらうために行っている取り組みを調査しました。

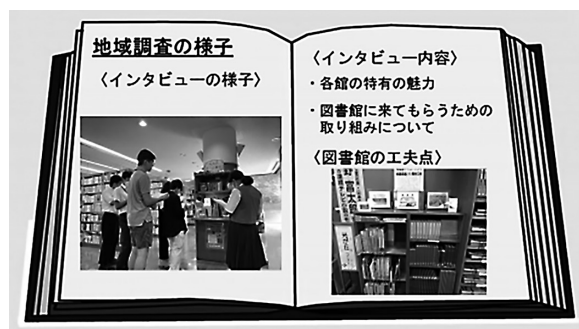
調査の結果、私たちが住む練馬区にある区立図書館では、利用者が図書館を使いやすい配置となっており、新聞・地図など本以外のものの設置、イベントやクラブ活動による学習発表会の開催、古くなった本や借りられることが少なくなった本を除籍して学校図書館や家庭に配り新しい本を所蔵する「本の循環」をしており、図書館がより利用しやすくなり、本に苦手意識のある人も図書館に行きたくなるような仕組みとなっています。本の循環は、図書館の活性化にも繋がっています。

また、区で「練馬区子ども読書活動推進計画」が策定されており、朝読書や読書週間の取り組み、図書への団体貸出の活用、読み聞かせ、ブックトーク「ビブリオバトル」や「読書会」などが行われていて、子どもたちがより本と触れ合う機会となっています。以上の結果から、次に述べる2つの問題点を見つけました。

1つ目は、そもそも図書館に来てもらえないことです。図書館で行われている工夫はどうしても図書館を利用する人に向けての工夫が多くなってしまいうため、図書館にあまり来ない人・本に苦手意識のある人に向けての工夫があまりなく、図書館に来てもらうことが難しくなっています。

2つ目は、図書館のイベントを知ってもらえないことです。図書館で行っているイベントが、図書館にあまり来ない人、本に苦手意識のある人にとって、たとえ魅力的だったとしても、そのイベントを知ってもらうことが難しく、図書館に来てもらえなくなってしまう。以上の問題点を解決するための提案に移ります。

まず1つ目の「図書館に来てもらえない」という問題点については「子供のうちから読書への親しみを持ってもらう」ことが必要だと思います。これは、小学校での読書活動の推進をすることや、ブックスタートという事業の



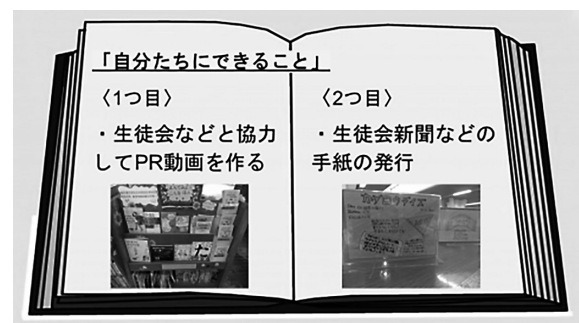
認知度を上げることが主な内容です。ブックスタートという事業は4ヶ月健診を終えた乳児に絵本をプレゼントするという内容です。小さいときから本に親しめるという大きなメリットと本に興味を持ってもらうという効果があります。認知度を上げるために、公園や民間施設のキッズスペースなど、赤ちゃんや小さい子供を連れた家族がたくさん訪れる施設の掲示板にポスターを貼るなどの取り組みを行う事が大切だと思います。

そして、小学校のときに読書旬間や学校図書を利用したイベントなどの活動を多く行うことで、読書は楽しいと思うようになり、苦手意識が無くなって、読書をするのが習慣になるという効果もあると思います。その習慣が身につくことや、小さいときから本に親しむことで、中学生、高校生になっても隙間時間に本を読む癖がつくという効果も期待できます。その効果から、時間が無いときにも本に親しむ意識が生まれ、時間があるときには「図書館に行こう」という気持ちになると思います。

次に2つ目の「図書館のイベントを知ってもらえない」という問題点については「図書館のPRの機会を増やす」ことが必要だと思います。これは、SNSを活用して図書館で行われているイベントを宣伝したり、学校で生徒会や図書委員会と協力して宣伝したりすることです。具体的には公式のYouTubeやInstagram、X（旧Twitter）、TikTokなどを開設し、学生に身近なSNSを使ってPRしたり、学校から図書館の魅力を伝えたりすることで、より効果的に図書館について知ってもらうことができ、読書離れが課題となっている中高生の読書の推進につなげることができると思います。

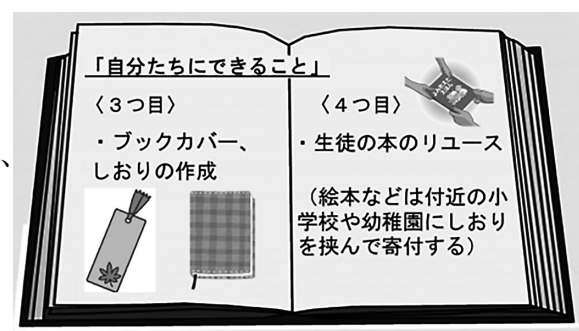
最後に、私達が出来ることは生徒会や図書委員会などと協力し、図書館利用や読書活動推進に繋がる広報物を発行することです。これにより、学校での図書館の知名度が上がることや読書への関心が高まることから、利用率が上がると考えます。広報物の例として次の4つのことが挙げられます。

1つ目は生徒会などと協力してPR動画を作ることです。PR動画では図書館の魅力を伝えたいと考えています。例えば図書館には「部活動」や「海」など、季節ごとにテーマを設定して、本を紹介するコーナーがあることなどです。このような普段図書館に行かない人が知らない魅力をPR動画にしようと考えています。



2つ目は生徒会新聞などの手紙に本や図書館に関する内容を載せることです。生徒会新聞は校内に貼ってあり、多くの人の目に触れるものです。生徒会新聞に載せることで、より多くの人に図書館のことを知って貰えると考えています。

3つ目は図書館の宣伝を施したデザインのブックカバーやしおりを作成し、配布することです。これらのものにするすることで、本を読んでいる人、そしてそれを見た周囲の人に図書館の宣伝効果が得られ、年代を問わず誰もが気軽



に使えるものであるため、幅広くこの効果を得られると考えます。

4つ目は学校で、生徒の家で読まれなくなった本を回収し、自由に読めるスペースを設けたり、そのうちの絵本などは付近の小学校や幼稚園に寄付するというものです。その際に先程のしおりを挟むことで、その本が再び読まれるようになると同時に、宣伝効果も得ることができると考えます。

以上で「若人こそ本を！～Let's読書！～グループ」の発言を終わります。

議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について質問があればお願いします。

質問：PR動画は何人ぐらいの人が見てくれると考えていますか。

回答：全校朝礼やホームルーム時などに流して、全校生徒に見てもらおう予定です。

質問：PR動画はどのぐらいの長さで作ろうと考えていますか。

回答：30秒から1分ほどの動画にしようと考えています。

質問：図書委員に協力してもらおうということでしたが、図書委員会には具体的にどのように協力してもらいたいと考えていますか。

回答：図書委員会にはPR動画の作成に協力してもらいたいと考えています。本に関わりのある図書委員会の考えも参考にすることで、よりよいPR動画ができると考えています。

質問：図書館では本以外のものを扱っているということですが、具体的にどのようなものを扱っているのですか。

回答：CDやDVD、紙芝居、布絵本を扱っています。布絵本は地域のボランティアの方が全て手作業でオリジナル作品の他、紙の絵本を忠実に再現してくださっています。手触りで形を感じ取れ、紙にはない仕掛けもあり、先端が紙のように尖っていない点から、視覚障害のある方や乳幼児でも本に親しむことができます。

質問：本の循環は毎月何冊ほど行われているのでしょうか。

回答：区立図書館では毎月約7千冊の新しい本を購入しています。なので、毎月約7千冊が入れ替わっています。

質問：中高生に図書館に来てもらうために、中高生が読みやすい漫画やライトノベルの数を増やしたらどうでしょうか。

回答：本を増やすのは所蔵数の問題があります。図書館ごとに所蔵数の多い本に違いがあり、漫画を多く所蔵している南大泉図書館、ライトノベルを多く所蔵している関町図書館と様々です。図書館によって違いがあることは、先ほどのプレゼンテーションで説明したポスターなどで紹介していこうと思っております。

議長

ありがとうございました。それでは次の発表に移ります。

「I（いい）C（環境）T（タブレット）」グループ、お願いします。

「教育ICTについて」 I(いい)C(環境)T(タブレット) グループ



私達「I(いい)C(環境)T(タブレット)」グループは、教育ICT(情報通信技術)環境について発言します。私達の住んでいる練馬区が行っている教育ICTの現状は、生徒と教員にChromebookを配布、アンケートを行って各学校の取り組みの意識などを調査したり、週1回程度、ICT支援員を派遣したりしているなどです。

今回、私達は教育ICTを追求すべく、練馬区教育委員会教育施策課教育ICT環境整備係の方に様々な質問を行いました。そこから、次に述べる3つの問題とその解決方法を考えました。

1つ目は、ドングルについてです。ドングルとは、USB接続のLTEネットワークに接続する通信機器です。ドングルは、ネットワークへの接続が遅く、非常に壊れやすいところが問題です。多くの学校で授業に支障がでており、練馬区全体では月600本以上も壊れています。

2つ目は、学校によってICT機器の活用に差がでていることです。現在、一部の教員がICT機器をうまく使うことができていなかったり、他校の人たちとICTを通じた交流が少なかったりしています。このことにより、ICTの活用やキャリア教育にも差が出ています。

3つ目は、フィルタリングが強すぎることです。これにより、調べ学習などの授業に支障が出ています。以上の問題点を解決するための提案に移らせていただきます。

まず1つ目のドングルのネットワークへの接続が遅く、更に非常に壊れやすいという課題については、学校にWi-Fi環境を作り、必要なときにドングルの貸し出しを行うことで解決できると考えます。そうすることで、LTEインターネットへの接続が早く、安定し、ドングルが壊れる事案も減ると思ったからです。ドングルの貸し出しが必要な理由としては、家にWi-Fi環境がない人や校外学習のときにもタブレットを使えるように



するためです。

2つ目の学校によってICTの活用に差が出ているという課題については、各学校にICT委員などICTの活用を促進する組織を生徒、教員ともに設立し、その組織同士の交流をはかる事によって解決できると考えます。そうすることによって、両者ともに他校の人たちと交流し、よりよいICTの活用法について考え、話し合うことができます。その結果、教員も生徒も、更に高い活用水準にあわせられると考えました。

3つ目、タブレット端末のフィルタリングが強すぎるために授業に支障をきたすケースが多々あるという課題については、TPOに合わせたフィルタリングの強度にすることで解決すると考えられます。主な手段として「①教員にフィルタリング解除について権限を与える。②フィルタリングの強度を時間帯で設定できるようにする。」これらを行うことにより、授業中に規制がかかってしまう問題が少なくなると考えられます。

最後に、私達は生徒側と先生側、それぞれに対してできることがあると考えています。まず、生徒に対しできることとしては、タブレットの使い方を説明するポスター、スライドなどを作ることや生徒会などがタブレットの使い方を説明する講習会などを開くことです。そうすることで、生徒だけでなく先生もタブレットの使い方を知ることができ、タブレットでできることが増える可能性があると考えます。

また、生徒に対しできることの2つ目は、生徒たちのフィルタリングが強すぎることに關してです。それについては、私達が使いたいサイトや画像があるときに学校の先生方に伝えることです。そして、先生方から教育委員会に伝達してもらうことで規制の解除と共にフィルタリングの基準の見直しなどにも繋がると考えられます。

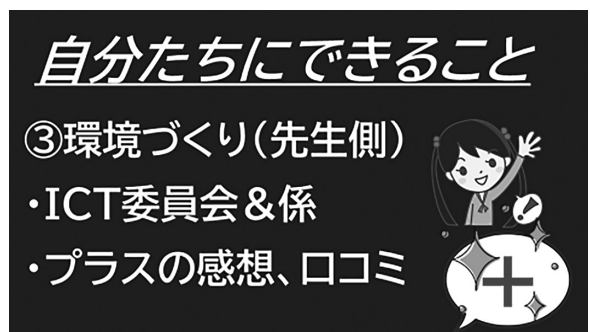
先生に対しできることとしては、ICT係やICT委員会などいざというときに頼れる場所を生徒主体で作ること、生徒の間でICTを使った授業のプラスの感想を広げることです。そうすることで、先生方が安心してICT機器を使える環境を整える事ができます。

以上で、I(いい)C(環境)T(タブレット)グループの発表を終わります。

議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

質問：「学校にWi-Fi環境を作る」とありましたが、Wi-Fi接続でも、クラス全体や学校全体などで一斉接続した場合は通信状態が悪くなると思うのですが、なぜ、わざわざ



ぎWi-Fiを設置するのですか。また、一斉接続のときに不具合が生じてしまった場合、どのように対処しますか。

回答：なぜWi-Fiを設置するのかにつきましては、Wi-Fiを設置した場合と従来通りドングルを使用した場合、Wi-Fiの方がメリットが大きかったからです。具体的には、通信速度が速く、安定していること。通信に上限がないことなどです。もし、一斉接続をして不具合が発生してしまったらどうするかにつきましては、基本的には現場の判断になるのですが、例えば、接続の時間を分けるなどの対策を行うことで解決できるのではないかと思います。

質問：ICT委員会は情報共有以外に何を行う委員会なのですか。

回答：ICTを使いやすくする雰囲気づくりなどや、ICTの使い方を知らない教員、生徒へのサポートを考えております。

質問：ドングルについてですが、管理はICT委員会が行うのですか。また、紛失、破損してしまった場合はどう対処するのですか。

回答：現状は、教員と練馬区教育委員会の間で連携をして、紛失や故障等に対応していますが、ICT委員会が設立された際は、そちらに移管することも考えています。

質問：Wi-Fiを設置し、Wi-Fiがないところでは、ドングルの貸し出し申請ができるようにするとありますが、申請から貸し出しまで時間はどのぐらいかかりますか。

回答：学校で管理するつもりですので、使う際に申し出れば、すぐにドングルの貸し出しができます。

質問：他校の人とタブレットを使ってICTの活用について交流するとは、具体的にどのような交流をすると考えていますか。

回答：部活動や生徒会、小中学校でのICTの使い方について意見交換をすることを考えています。

質問：校内にICT委員会を設置するということでしたが、ICT委員会に入る上で、機器を扱う知識が必要だと思います。委員会に入れるのは、ある程度の知識がある人なのか、また、何か委員会内で教育などをするのでしょうか。

回答：ICTに興味がある、学びたいといった意欲がある人なら誰でも入れるようにしていこうと考えています。また、委員会内では、生徒同士の知識の交換や、ICT支援員の方から指導をしてもらいたいと考えています。

質問：ICT機器をうまく使うというのは具体的にどのようなことであると考えられるのでしょうか。

回答：生徒一人一人がICTのメリット、デメリットを理解しながら、それぞれの授業や自主学習に合わせてICT機器の選択ができること、また、様々なソフトや、調べた情報を活用しながら学習活動を発展させることができることだと考えています。

議長

ありがとうございました。

この際、以降のグループ発表に参加したいので、副議長の太田議員と交代いたします。

副議長

ここからは、副議長を務めます、練馬子ども議員、
光が丘第二中学校3年、太田圭亮が議長の職務を行います。
よろしくお願いします。

それでは、次の発表に移ります。

「Keep Our Nature 豊かな自然を
守り隊」グループ、お願いします。



「練馬区のゼロカーボンシティの実現を1秒でも早くするために」 Keep Our Nature 豊かな自然を守り隊 グループ



私達「Keep Our Nature ～豊かな自然を守り隊～」のグループでは、令和4年2月に表明された、「練馬区のゼロカーボンシティを1秒でも早く実現するために」について、提言します。ゼロカーボンシティは2050年に二酸化炭素の実質排出量0を目指して表明された政策です。

まずはじめに、練馬区の環境に対する現状です。今回私達は、現状や課題についての生の声を聞き、解決策につなげるために、練馬清掃事務所と豊玉リサイクルセンターに行き、インタビューをしてごみの減量やリサイクルについて調査しました。練馬区には、4つのリサイクルセンターがあります。そこでは、不必要になった食器類をはじめ、家具などを修理し、売却するなどのリユースの取り組みをしています。そこで見つけた課題が、次に述べる4つです。

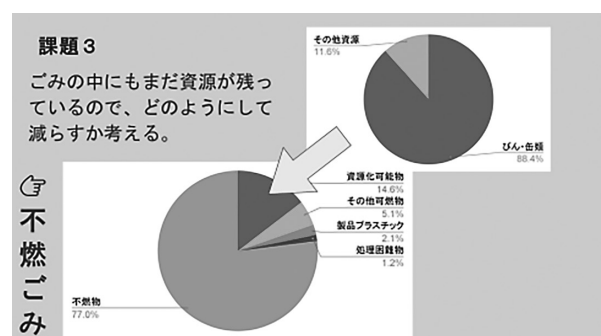
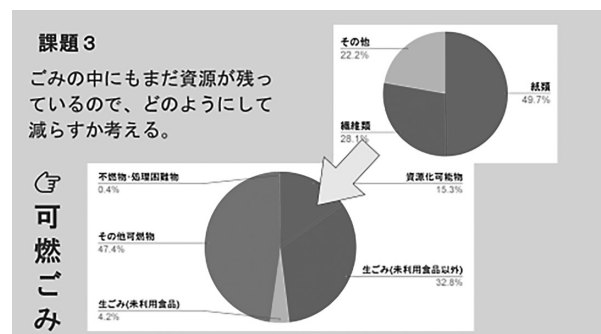
1つ目は、埋立処分場を長く使っていくために、ごみの分別方法をしっかりと理解する必要があります。あと50年で、埋立処分場がいっぱいになってしまい、次世代へ残していくためにも、現代を生きる私達がごみの分別について理解しなければなりません。

2つ目は、アクリル板の再生利用方法を考える必要があります。新型コロナウイルスが5類になったことで、使わなくなったアクリル板を未だ放置している状態にあります。

3つ目は、ごみの中にもまだ資源が残っており、分別を更に徹底する必要があります。

現在、練馬区の調査では可燃ごみの中で、資源として排出されれば活用できた資源化可能物は15.3%であり、その半数が紙類で、不燃ごみの資源化可能物は14.6%です。そのほとんどがびん・缶類です。それらは、資源循環センターで手選別で資源をごみの中から取り除き、もう一度不燃ごみ処理センターで機械選別しているという現状にあります。

4つ目は、ごみの重量、二酸化炭素の排出量とともに減らすために生ごみ



の水分をしっかりと切る必要があります。生ごみに多くの水分が残っていると、その分たくさんの火力を使ってしまい、二酸化炭素の排出が増加してしまいます。ただし、ここで出た熱は近くにある温水プールの熱源にしたり、冬場に近所の団地の暖房代わりとして再利用されるサーマルリサイクルを行っています。そして、練馬区の可燃ごみのうち、37%が生ごみであり、この生ごみの多くが燃やした後、灰をセメントにする取り組みや生ごみをコンポストに入れて肥料にする取り組みが行われています。

以上の問題点を解決するための提案に移らせていただきます。

ここからは課題の解決策についてです。1つ目の課題に対しては、ごみの分別方法について情報発信し、区民の方々に理解をしてもらう必要があると考えたため、人の目に付きやすい公共施設や、電車やバスなどの交通機関など、みんなが必ず目にするところにチラシやポスターを貼ります。そうすると、ペットボトルやお菓子の袋など、身近なごみの分別に協力してくださる方が増え、埋立処分場を長く使うことができるでしょう。

2つ目の課題に対しては、区民のニーズに応え、再利用方法を決定することが必要だと考えました。そのため、区民に向けたGoogleフォームを作成して、アンケートを取り、そのフォームの結果から、再利用案を決定します。

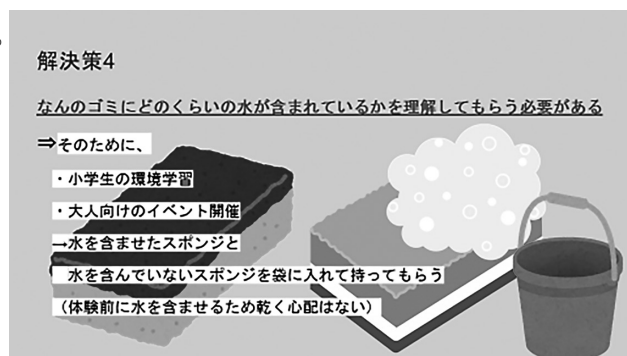
3つ目の課題に対しては、資源に含まれているものには何があるのか知って貰う必要があると考えました。人目につきやすい公共施設や電車やバスの交通機関など、みんなの必ず目にするところにチラシやポスターを貼って、資源に含まれているものを知ってもらい、ごみの分別を徹底してもらいます。

4つ目の課題に対しては、何のごみにどれくらいの水を含むのかを理解してもらう必要があると考えました。そのために、小学生の環境学習や、大人を対象としたイベントで、ごみの実物ではなく、水を含ませたスポンジと含ませていないスポンジを袋に入れて持ってもらい、実際に体験してもらうことで理解を深めてもらいます。これからの未来を担う小学生が環境学習に触れていれば、大人になったときに、しっかり水を切ってから生ごみを捨ててくれると思います。

これまで述べてきた解決策の他にも、私たちにできることが3つあります。

1つ目は朝礼などで学んだことや見たこと聞いたこと、感じたことを説明し、練馬区から排出される全てのごみの削減を呼びかけることです。このような取り組みをすることで、食器などが安値でリユースされていることや、正しいと思っていたごみの出し方や主に水切り・分別に問題があること、その他にも資源循環センターというところでは手作業で資源かごみかの選別をしていて、また、その選別した中には沢山のまだ使える資源が残っているという現状を練馬区の人たちは知ることができます。それを機に沢山の人がごみの出し方を見直したり、要らなくなった食器などはすぐ捨てようとせずにリサイクルセンターに寄付したりという活動が活発になると考えられます。

2つ目は生徒会新聞などを通じて、学校全体にごみの削減について呼びかけることです。このような取り組みをすることで、朝礼の時などに自分たち



が話すのと違い、字におこして説明するため、話して説明するよりわかりやすく伝えることができると考えられます。

3つ目は三者面談の時などに、先生に保護者に向けてチラシを配ってもらうことです。このような取り組みをすることで、学校だけではなく、家族にもごみについて意識してもらうことができると考えられます。

このように、私たちは練馬区のゼロカーボンシティの実現が1秒でも早くなるように、できることを行動にうつしていこうと思います。小さいことかも知れませんが、一人ひとりがごみの出し方、分別の仕方などを工夫すれば、ごみを燃やすときに出るCO2、ごみを運搬する際の自動車から出る排気ガスが削減され、ゼロカーボンシティというみんなの大きな成果に繋がっていきます。これを聞いているみなさんにも練馬区のゼロカーボンシティ実現に向けて協力してほしいです。

以上で「Keep Our Nature～豊かな自然を守り隊～」グループの提言を終わります。

副議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

質問：チラシやポスターはごみ箱に貼ってしまえばよいのではないのでしょうか。

回答：公園など外にあるごみ箱に貼った場合、雨が降った時、濡れて破れてしまうので、交通機関などの施設内に貼ることにしました。

質問：大人を対象としたイベントをするとありましたが、人を集める策はあるのでしょうか。

回答：イベントはリサイクルセンターで実施するため、ねりま区報やホームページ、学校やリサイクルセンターなどのイベントでチラシを配ってもらうことを想定しています。

質問：余ったアクリル板を再利用する方法を考えるとということでしたが、どのようなものに再利用しようと考えていますか

回答：キャラクターのアクリルスタンドや、アンケートを募り、区民のニーズに応えた再利用方法を検討していきます。

質問：チラシやポスターを作るとありましたが、誰が作るのでしょうか。

回答：各学校の美化委員や整備委員といった環境系の委員会と生徒会が協力して制作していきます。

質問：Googleフォームを使用してアンケートをとるとのことですが、どのぐらい回答してもらえると考えていますか。

回答：練馬区には74万人の人が住んでおり、ごみ集積所が約3万8千か所あります。そこで、練馬区の人口の最低でも2割の方に回答してもらいたいので、1つの集積所につき最低でも3人から4人の回答があればいいと考えています。

質問：高齢者の方や子供など、Googleフォームを使った回答が難しい方の意見はどうやって集めるのでしょうか。

回答：Googleフォームを使った回答が難しい方は、紙のアンケートで集めることにしました。具体的には、スーパーや図書館にアンケート用紙と回答箱を設置したり、区立施設で

職員の方にアンケートに協力してもらうように呼びかけてもらいたいと考えました。

副議長

ありがとうございました。それでは、次の発表に移ります。

「Let's enjoy sports together ～誰もが楽しめる環境創り～」グループ、お願いします。

「みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち」 Let's enjoy sports together ～誰もが楽しめる環境創り～ グループ



私達、「Let's enjoy sports together～誰もが楽しめる環境創り～」グループは、「区立体育館の利用について」発言します。

私達が住む練馬区には、区立体育館が計7か所あり、区民がスポーツをすることができる環境が整っています。今回私達は、この区立体育館という施設の利用実態はどのようになっているのか、またスポーツが気軽に楽しめる場となっているのかを光が丘体育館と班員の所属する中学校4校で調べました。光が丘体育館では、館長さんと光が丘総合型地域スポーツクラブの理事長さんからお話を伺い、班のメンバーが所属する中学校では、通常学級と特別支援学級にそれぞれ体育施設利用についての意識調査を行いました。地域調査と意識調査によって、区の現状について吟味しました。



まず体育館の利用実態について、私達の調査した光が丘体育館では個人利用や団体利用ができ、とても人気が高く多くの人を訪れ、館内が埋まると聞きました。また、利用者の大半は高齢者ということもわかりました。

次にバリアフリーについてです。光が丘体育館ではスロープや障害のある方でも使いやすいトイレなどが設置されていて障害があっても運動しやすい環境になっていました。しかし、障害のある方にとっては、体育館へ来るまでの道のりがあるため、利用者は少ないと聞きました。

そして、中学生のスポーツに対する意識についてです。4つの中学校で地域の体育施設を利用したことがあるかを調べた結果、通常学級では、ほぼ全員が利用していて、特別支援学級では約6割の人が利用したことがあるという結果でした。

最後に、体育館で行われる事業の広報についてです。区の7つの体育館ではSNSや区報などで広報活動を行っていますがあまり効果がなく、更に効果のある広報方法について考えていると聞きました。

これらの現状から私達は4つの課題を見つけました。



1つ目は「広報活動の効果があまり見られない」についてです。SNSなどを利用し広報活動を行っているが、効果があまり感じられません。

2つ目は「障害がある方にとって、体育館までの道のりがあるため、障害がある方の利用が少ない」についてです。館内はバリアフリーになっているが、周辺環境が整っていないため、障害がある方の利用が少ないです。

3つ目は「アクセスしやすく大きい光が丘体育館に人が集まりやすく、受け入れ人数に限界がある」についてです。個人利用もできるが、人気ですぐに埋まってしまいます。

4つ目は「体育館の利用年齢に偏りがある」についてです。

1つ目の課題に、広報の効果を高める活動をするということを提案します。広報活動を高めていくことで、若い世代にも広めてもらうことができます。このことの具体的な方法は、若い世代には、体育館のいいところを集めた動画を作成し、拡散してもらいます。そして、学校では授業内で講師を招くことで、ボランティアの簡単さや、スポーツの意義を実感してもらえenと思います。また、運動の効果についてのチラシを配ることで幅広い世代に広めることができると思います。これらを行うことで、どんな運動をしていいかわからない人が運動の効果などを知り、少しでも興味が湧くのではないのでしょうか。

2つ目の課題に対し障害がある方の利用を増やすことを提案します。そのための具体的な方法として、障害がある方が利用する施設にポスターを設置することです。そうすることで今まで体育館を利用したことがない人も障害者に優しい体育館の存在を知ることができて利用者も増えると思います。ですが街の中にはバリアフリーではない場所もあり、体育館に行くまでが難しい人もいます。対策として送迎バスのサービスを実施し、不自由なく体育館に行けるようにする必要があると思います。また、指導者を招いて個別指導で行うことで本格的なプログラムになり、送迎バスと合わせて行えば様々な場所から様々な利用者が増えると思います。

3つ目の体育館の受入人数に限界があるという課題に対し、様々なところでできる運動を促進するという形で解決することを提案します。例えば各SSCと協力して、各地域でのスポーツを活性化させたり、家でできる運動について情報を発信、スポーツの用具貸し出し、スポーツが気軽にできる環境づくりを勧めていくなどすることで解決できると考えます。

最後に、利用する年齢層を広げることを提案します。親子でできるスポーツイベントや、保育施設や小中学校との連携企画など特定の年齢層に向けた企画の実施を行い、年齢層を広げていくことを提案します。

私達が出来ることはポスターやチラシの作成をし、学校などに掲示をすることです。ポスターなどを学校に掲示することで、学校で配られる手紙よりも、目を通す生徒が増えると思います。さらに、同年代の人が作成するからこそ親近感がわき、スポーツに興味をもってもらえたり、スポーツに参加しやすくなったりすると思います。

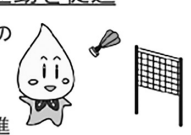
また、どんな人でもできるルールを作ることです。どんな人でも出来るル

「体育館の受け入れ人数の限界」の **解決策・提案**

③様々な場所でできる運動を促進

→ 各SSCと協力し各地域でのスポーツを活性化

- ・家でできる運動の推進
- ・スポーツの用具貸出の推進
- ・スポーツが気軽にできる場所づくり



ールを作ることでハンディキャップがなくなり実力差が少なくなります。そのため、高齢の方や障害がある方もスポーツに参加しやすくなると考えます。

他にも、自分から友達に体育館などの利用に誘ってみたり、自分が学校の代表として学校全体に呼びかけをしたりすることで自分と近い年齢層の利用者を増やすことができると考えます。

また、どんな人でもやりやすく、わかりやすい簡単なルールでのスポーツの企画を考えて実施することで、障害がある方の利用が増えると同時に、障害がある方とない方の交流ができ、お互いの理解が深まり、共生社会実現の第一歩になると思います。

また、支援学級があるところに広げることです。支援学級があるところに広げることで、障害のある方やその親族、友人などが体育館へ足を運ぼうと行動を起こすきっかけになると考えます。

次に、ニュースポーツ用具を借りることです。ニュースポーツ用具を借りることで、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽に自由に楽しめるスポーツの実現に近づき、より多くの方々がスポーツをしてくださると考えます。

最後に、家族で体育館の個人利用を試してみることです。家族で体育館の個人利用を試みることで、友人を誘ったり、学級代表として呼びかける際に体育館の長所を的確に伝えられると考えます。

以上で、「Let's enjoy sports together～誰もが楽しめる環境創り～」グループの発表を終わります。

自分たちにできること

- ・ポスター、チラシの作成
- ・どんな人でもできるルールを考える
- ・友人を誘う
- ・学校代表として生徒に呼びかける



副議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

質問：ニュースポーツには、具体的には何が含まれますか。また、その用具を貸し出してほしいという人は一部の人だけではないのでしょうか。

回答：練馬区が用具の貸し出しをしているニュースポーツには、グラウンドゴルフやボッチャ、手のひら健康バレーなどがあります。用具の貸し出しをすることで様々な人にニュースポーツに触れてもらうことが目的であるため、誰が求めているかは関係なく貸し出しをしたいと考えています。

質問：特定の年齢層に向けての企画とは具体的にどのようなものですか。また、特定の年齢層にのみ企画を実施した場合、参加者の年齢に偏りが出るのではないのでしょうか。

回答：利用者の多い年齢層は対象にせず、利用者の少ない若者向けの企画を実施し、利用者数の偏りをなくしつつ利用者の全体数を増やしていこうという考えです。

質問：誰でもできるルールが簡単なスポーツとは何ですか。

回答：ヨガやボッチャなどはルールがわかりやすいスポーツだと考えられます。

質問：バスによる送迎はどの地域で実施することを想定していますか。また、お金が必要になるのではないのでしょうか。

回答：練馬区全体での送迎を考えています。費用はかかると思いますが、より多くの方がスポーツに触れられる環境をつくる上で必要なものと考えています。

質問：体育館の良いところを集めた動画を作成、拡散することですが、動画が広く拡散されるためにどのような工夫をしますか。

回答：誰もが楽しめるスポーツについて、バリアフリー環境の充実についての動画を発信していきますが、時には、利用客が少ない若者をターゲットにした話題性のある動画を投稿することも必要と考えます。

質問：体育館の良いところとは具体的に何なのでしょう。

回答：館内のバリアフリー化が進んでいるため多くの方が利用しやすいことや、トレーニングルーム、プールなどの設備が整っており、幅広くスポーツを楽しめることです。

副議長

ありがとうございました。以上で、政策提言発表を終了いたします。

それでは、練馬子ども議会で発言のあった、「中高生に図書館に来てもらうにはどうしたらいいのかについて」、「教育ICTについて」、「練馬区のゼロカーボンシティの実現を1秒でも早くするために」、「みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち」、以上の4つの政策提言について、教育長から講評をお願いします。

教育長による講評

堀 教育長



皆さん、こんにちは。私は、練馬区教育委員会教育長の堀和夫と申します。

35名の子ども議員の皆さん、7月1日から本日までの5日間にわたる子ども議員の活動、大変お疲れさまでした。

私も、7月31日の皆さんの政策提言発表に向けた意見交換会から傍聴をさせていただきました。

皆さんは、区立の中学校33校からお一人ずつ、都立、私立の中学校からお一人ずつ、計35名が集まってくれましたが、皆さん初対面だったと思います。

お聞きになっているかもしれませんが、子ども議会は平成16年から、新型コロナウイルスで中止になった令和2年、3年を除き毎年開催しています。昨年も開催しました。今年度は、7月1日の初回学習会から、グループづくり、それから研究課題の設定、そして、地域調査と政策提言は夏休みに入ってからやっていただき、本日の会議に臨まれたわけです。

今年の夏は、いつもと比べて殊のほか暑く、地域調査も大変だったと思います。

また、先ほど冒頭に申し上げましたように、初めてお会いした人たちが、政策提言を作り、そして本日の発表会に臨んでおります。これを5日間で成し遂げたというのは、本当に大変だったと思いますし、グループとしてそれに向かって議論をし、自分の主張だけでなく、他の人の考えも分かって、それから最善の政策としてまとめ上げていたことは、非常に難しい体験だったと思います。

また、地域調査や施設訪問において、アンケートやインタビューを施設の人とか利用者にしていただきました。政策の背景と必要性を踏まえた政策提言になったものと思っています。

7月31日、月曜日の意見交換会と、本日の発表は、各グループ共に明確に説明をし、質疑応答も明快に答えていただきました。また、議長と副議長を務めていただいた方々の議事進行も円滑で大変よかったですと思います。

それでは、発表されたグループ順に、私から講評をさせていただきたいと思います。

まず1番目の、「若人こそ本を！～L e t’ s 読書！～」グループの皆さんについてです。

図書館を課題として選んでいただきました。

そもそも、中高生は図書館に来てもらえていない。それから、図書館でやっているイベントが、住民にもあまり知られていない。これが二つの課題で、解決策として、子どもが

読書に親しむような活動をやっていく。ブックスタートは、皆さんが生まれる前の平成14年から始めている事業ですが、それを紹介していただくなどの取組を提言、解決策として出させていただきました。

それから、図書館をPRする。SNSの活用などでイベントの宣伝を学校の生徒会役員と協力してやるということでした。

そして、全グループに共通して言えるのですが、これまでの子ども議会の政策提言は、どちらかと言えば、施設や行政に求めることが多かったのですが、今回は全グループ共に自分たちでできることを考えていただきました。

そのような意味では、求めるだけではなくて、自分でできることをやっていく。これはある意味では一つの大きな変換だと思うし、考え方だと思っています。これはこれからの人生の中でも、ぜひ励行していただきたいなと思います。

それではまず一点目ですが、図書館は12館と1分館、これは南大泉図書館分室で13館になります。

皆さんはもう既に調査の中で調べられたと思いますが、図書、雑誌、CD、DVD全部合わせると、令和3年度の数字で200万点以上あります。そして、来場者が全館合わせて380万人います。

赤ちゃんを入れて区民74万で割ると、平均すると1人5回以上来ているということになるのですが、全然来ていない方がいらっしゃいます。一方で、多数回来る方もおられます。そのような方を入れると380万人になるのですが、皆さんが図書館の利用者を増やすという視点で考えていただいたことは、図書館を所管している私としては非常にうれしいことですし、中学生が読書に親しんでもらうことは、非常にありがたいことです。一方で、もう既にインターネット予約というのが始まっていて、図書館に行かなくても、駅に近いところの受取窓口を、区内6か所に設置しています。ネット予約をして、受取窓口で本をもらって、返すのもそこでやるとなれば、館に行かなくても本は借りられます。そのようなやり方もあるということをご理解いただきたいと思います。

それからもう一つ、小学校も中学校も国の基準で、学校図書館でそろえなくてはいけない本の数が決まっています。学校図書館図書標準というのですが、例えば、中学校の場合は4クラスで3学年、12学級ある学校でしたら、1万720冊、約1万冊は学校にあるのです。ですから、皆さんの学校は規模が大きい小さいがあると思いますが、クラス数が少なくても多くても、学校図書館の図書は必ず一定数ある。

ただ、区立の図書館と比べると、本の数は区立図書館の方が多いです。

そういった意味では、学校図書館を使うだけでなく、区立図書館の本をネット予約し、来館しなくても使うという発想があってもいいかなと思いました。

それから、練馬区は、去年の11月に「これからの図書館構想」というのを作りました。これから練馬ならではの図書館を目指していくとしています。

なかなか周知してもらえないということですが、これからは、図書館でないと提供できないサービスというのを提供していこうと思います。

練馬の文化を継承して発信していくとか、地域と人と人とのつながりを創出するとか、情報にアクセスできる場所として提供するとか、世界と出会いの学びを豊かにするとか、そういう四つのコンセプトの基に図書館構想を作っています。皆さんのこれまでの様々な研究を踏まえて、私どもとしても進めていきたいと思えます。

それから、既にデジタル図書という本が売られています。

ただ、デジタル図書というのは、すべての本がデジタル化されているわけではありません。商品としてなりうるかということで、また、出版社も限られています。ある程度、売れ筋の本だとか、そういう出版社がやっているだとかで、デジタル図書というのは、全部ではないのですが、これから検討し導入していくサービスの中にあります。

館に行かなくても、受取窓口以外でもデジタルで借りられるものがあります。作品は全部とは言えないところが、現時点での状態です。

本を買えば永久に自分のものなのですが、これは情報なので、ずっと使用できないという期限もあります。そういったものをこれから検討していく必要があるかと思えます。

皆さんから質問がありました動画については、勉強会の時にも、本日もありましたが、誰がどのようにやるのかを一緒に考えた方がいいと思えます。動画は誰かがやってくれるのではなくて、今回は皆さんの答えから図書委員会が出てきましたけど。そのように、誰にやってもらう、どのようにやるというのは、一緒に考えた方がよかったかなと思えます。

もう一つ、アイデアとして、利用しない人の意見をなぜ聞かないのか。ヘビーユーザーに聞くよりも、行かない人に聞いた方が、逆に効果があるのではないかと思えます。

練馬区の図書館では、1年間に1億8千万円分の本を買っています。先ほどお答えの中にありましたが、今年約7千冊買って、それで本の循環をしている。

どうしても本を捨てるのはもったいないですが、ベストセラーなどピークときには結構オフアが来ます。リクエストが多いです。ただ、波が去ってしまうと何十冊も買った本が全部要らなくなってしまったりするので、それから、情報として古くなっているがあるので、それを捨てるのはもったいないので、本の循環をやらせていただいている。そして、新たに毎年1億8千万円分買っているということです。

これを契機に本に親しんでいただきたいなと思えます。いろいろと調べていただきましてありがとうございます。

それでは、次に、ICT「I（いい）C（環境）T（タブレット）」グループの皆さんです。

私も、このタブレットを担当している人間なのですが、なかなか耳の痛い話です。

まず、ドングルは壊れやすい。それから、うまく使いこなせない教員にICTを指導する教員が少ない。タブレットが利用されていないことで他校との関わりが少なくなってキャリア教育に差が出る。それから、フィルタリングが強過ぎるということでした。

解決策として様々な御提案をいただきました。私どもも同じ思いです。

そこで、最初に聞いていただきたいのは、皆さんもお調べになったGIGAスクール構

想ということです。

これは国の施策で、児童生徒に一人1台のコンピューターと高速ネットワークを整備するというのがGIGAスクール構想ですが、その中には、ハードとソフト、それから指導体制、この三つが一緒になって進むということになっています。

ハードというのは今、皆さんにお配りしているタブレットです。ソフトはこれから出てきます。デジタル教科書とかそういう教材です。もう既に、中にはドリルみたいなものが入っていたりしています。そういうものと、指導体制です。

これが三つそろって初めて有効になるわけですが、日常的にICTが使える体制を作るというのが今回のGIGAスクールの目的です。

練馬区には小中学生が合わせて4万7千人ぐらいいます。小学生が3万3,600人ぐらい、それから中学生が1万3,500~600人です。

5万人弱分のタブレットを一遍に揃えました。リースでそろえるのも大変で、これは国の補助も出ていますが、区の予算だけでも、その5年間のリースを込みにすると35億4千万円ぐらいかかっています。

ドングルが壊れるという話がありましたが、Wi-Fiでなくても、ドングル機能が入っているコンピューターを買えばいいのではないか、ハードを買えばいいのではないかということもあるのですが、どうしてもお金の問題があるから、すぐにはできないというところがあります。

ドングルがなければつながらないということについては、そう思っています。来年の4月から小学校の教科書が全部変わります。デジタル教科書が、全教科ではないけど一部の教科から入ります。再来年には中学校でデジタル教科書が入る内容が出てくると思われます。

皆さん、2年生、3年生の方については、中学校の教材、教科書が変わるときには、もう既に中学生ではなくなっているかもしれませんが、そのようなときに合わせて、私どもとしては最適な通信環境を整備していきたいと思っています。

お金のかかることですし、遠大なことでもあるので、今の段階では、そのようなお答えをさせていただきたいと思います。

2点目です。ICTができない先生とか苦手な先生ですが、これは私どももそう思います。そこで、発表の中にも出てきましたけど、ICT推進員です。これは先生に相談して教えてあげるといってICTの専門家の方、それから、各学校に、先生の中でそれを精通した人に、ICT活用推進リーダーという役目を負っていただいて、必ず1校で1名ずつ毎年増えるようにしています。

ICT支援員のプロの方から教わり、それから学校の中でリーダー格になる人からまた教わるということをやっています。また、既に教育ICT実践事例集というのは出して、それも各学校全員が見られるようにしていますし、各学校では、学校独自の研究や研修の中でICT教育について取り組んでいただいています。これを地道にやることで、やっていきたいと思っています。

職業体験ソフト。これについても、私どもとしても取り組んでいく考えです。

それから、フィルタリングです。フィルタリングは、ショッピング、ギャンブル、性というのにフィルタリングがかかっています。ちょっとでもショッピング系になってしまいますと駄目なので、それが職業体験とか何かになってくるとフィルタリングがかかってしまうのではないかと思います。

この練馬区のシステムは、先ほど言った4万7千台が全部同じような制度で動いているので、ある学校だけとか、ある学年だけとか、ある学級だけというふうにフィルタリングを解除できないのです。ですから、全部解除してしまうと、例えば中学校でやったりすると小学校の1年生も全部フィルタリングを解除することになってしまいます。学校に権限を持たせるとするのは、システム上、今の段階では困難です。これは分かっていたくしかないですね。

中学校の授業でネット犯罪に困らないようにしようとか、それから、いじめ問題でSNS練馬区ルール、スマホとかはいつまでにやるとか、返信を求めてはいけないとか、こういうようなこともあります。

今回のタブレットの使い方だけではなくて、SNSとか、そういうデジタル機器の使い方については、他の教科も含めてやっていきたいと思います。

いずれにしても、どんどん進んでいる内容ですので、機能とか、それから通信環境については、我々としても、これからさらに進めていきたいと思っています。いろんな議論を本当にありがとうございました。

3番目のグループです。「Keep Our Nature 豊かな自然を守り隊」グループの皆さん。

問題点としては、埋め立て処分場は50年でいっぱいになってしまう、少しでも延命しなければならない。アクリル板が要らなくなってしまうたら再利用する必要がある。ごみの中に資源があるので分別をさらに徹底する。それから、ごみの重量を減らして、それによって、生ごみを減らすことによって二酸化炭素の排出量を、水分を減らして抑えるということです。

身近な生活からごみの減量を考えてきたということは、一つの着眼点だと思います。

例えば練馬区では、令和4年の2月にゼロカーボンシティを表明しまして、カーボンニュートラルを2050年度までに取り組むことにしています。

今日も暑かったですけど、この地球温暖化や、近年の猛暑は、二酸化炭素の排出量が原因である地球温暖化、温室効果ガスによるものだと言われています。温暖化というのは、国連の事務総長は沸騰だと言っていました。

まずは、身近なところから取り組んでいくという着眼点は、私はこれでいいのではないかと思います。

解決策の中で、ポスターを貼る、いろんなアンケートを取る。それから、資源になり得るものを知ってもらう。それから、スポンジに水を含ませて、重いスポンジと絞ったスポ

ンジを重さで見てもらおう。これは一つの考えですね。私もそう思います。

特にカーボンニュートラルとかの取組というのは、自分たちにできることを地道にやっていただきたいと思います。

そこで、今回は、ごみを減らす、生ごみを軽くしようということでしたが、例えば、ごみの発生抑制以外に、食品ロス、それから、リサイクル、再利用製品の利用、レジ袋を受け取らないようにするとか、皆さんの学校給食で出ている牛乳のストローをやめてしまおうとか。牛乳は、事業者が一定程度の在庫がなくなったらストローをなくしますということは言っています。また、低公害車を利用するだとか、取組はいろいろあります。

我々教育委員会でも、牛乳のストローも含めて、例えば学校の改築・改修のときに地球に優しい資材を使ったり、太陽光エネルギーを使うような発電とか、屋上緑化をするようにしています。エコの取組というのは、たくさんのやり方があります。ですから、今回は、皆さんはごみの減量から入ってきましたけど、食品ロスだとか、いろんなことを一緒に取り組んでいただきたいと思います。

それから、質問の中に、高齢者は、スマホを持っている人は十数%しかいないから、紙でアンケートを取らないということでした。

紙によるアンケートというのは、いわゆる情報弱者ですね。先ほどの2番目のグループもそうですけど、デジタルデバインド対策というのは必ずフォローをする必要があると思いますので、それも取り組んでいくということで、よろしくお願ひしたいと思います。

これからも、エコには皆さん取り組んでいただきたいと思います。お疲れさまでした。

最後に、「Let's enjoy sports together～誰もが楽しめる環境創り～」グループの皆さんです。

地域体育館に着目していただいて、広報の効果があまり見られないとか、障害のある方について、道のりなど、なかなか体育館を利用することが難しいとか、それから、アクセスがよい光が丘体育館に人やイベントが集まっているということですが、受入人数に限界があるとか、利用者の年齢に隔たりがあるとかということで、解決策を出していただきました。

一つ御紹介しますけども、区立体育館は、皆さんがお調べになっている7館があります。そのうち5館には温水プールが併設されているので1年中泳げます。

そういった意味では、結構利用率が高いです。7館というのは区内の中にしてみると、そんなに多いというわけではないです。

例えば、皆さんのところにある学校の体育館はどうかなと思ひまして御紹介しますが、学校体育館を個人開放しているのは、小学校33校、中学校はどうしても部活があるから4校、いずれも、37校で個人開放しています。その他、校庭とか教室も開放しているところもあります。

皆さんの中学校では部活があったり、塾等の習い事があるからなかなか忙しいです。そ

うすると、一番空いてそうなおときには行けないとか、土日は結構利用者が多いからなかなか入りにくいということがあるので、学校の体育館が開放しているのを活用するのも一つの策だと思います。

それから、もう1点、児童館は17館あります。中学校の約半分です。皆さんが小学生の時に、ねりっこクラブというのが始まっていたと思います。ねりっこクラブは、小学校でできたので児童館の利用が減りました。そこで、中高生タイムということを拡充しています。毎日やってるところもあります。

そういうところで、居場所や、やりたいことにチャレンジできれば、体育館ほど広くなのですが、3×3ぐらいのバスケットができるようなところも児童館によってはありますので、利用されたらどうでしょう。

中高生タイムは、ただいるだけというだけではなくて、事業をやったりしています。流しそうめんとか、Tシャツづくりとか、学習会をやったり、夕涼み会をやったりしています。そういうところの利用も考えられたらどうかと思います。中学生の場合は午後7時まで。一つの児童館では8時までやっています。

Let's enjoy sports togetherなので、スポーツができるということは、体育館に限らず、いろんな方法を考え使ってやっていただきたいなと思います。

それから、障害者を車で送迎とありましたが、バスで送迎というのは難しいと思います。逆に言えば、我々はいつでもどこでも気軽にスポーツを楽しむと、これは、今、練馬区を目指しているところで、ユニバーサルスポーツフェスティバルというのをやっています。

オリ・パラの2020東京大会を契機に、パラリンピック、それからテニスの国枝さんとか、いろんな人が活躍していることによって、パラスポーツというのは着目されています。

通常のスポーツの障害者の方のジャンルということだけではなくて、先ほど出てきたボッチャ、それから風船バレーとか、スポーツ吹き矢とか、いろいろあるのです。そういうことに参加するチャンスが出てきています。確かに体育館でやれば理想ですけど、そうではなくて、先ほど言った学校の体育館開放とか、それから、いろんなところを使って、身近にスポーツが楽しめればいいのかというふうに思っています。

そういったことで、いろんな方法でスポーツを楽しんでいただきたいと思います。お疲れさまでした。

私からの4グループに対する講評は以上ですが、4グループ共に熱心な調査と議論をしていただいて、すばらしい政策提言になったと感心しました。

政策提言を、今後の区の事業にできる限り反映できるように、私も取り組んでいきたいと考えております。

皆さんは、今回の子ども議会の活動を通じて、学校では体験できない貴重な経験をしたと思います。冒頭にも申し上げましたが、初めて会った人とこうやってプロジェクトを

行っていく、しかも短期間で。

それから、なかなか行く機会のない議場とか全員協議会室で、そういう発表や議論などができる活動ができた経験がある。それから、限られた時間で成果を出すだけでなく、自分の考えを大勢の人前で明確に発言して、いろんな質問にグループ全員で協力して答える。これは恐らく皆さんのこれからの人生で役に立つ日が必ずくると私は確信しています。これからも、自ら考え、実践して、家庭生活や学校生活を素晴らしいものにしていただきたいと願っています。

結びになりますが、本日の議長を務めてくれた杉浦さんと副議長の太田さん、そして、発表してくれました全ての子ども議員の皆さんに心から感謝申し上げ、私の講評とさせていただきます。

委員としての活動、大変お疲れさまでした。

以上です。

副議長

これもちまして、令和5年度練馬子ども議会を閉会します。

子ども議員の皆さん、また傍聴者の皆さん、長時間ご協力をありがとうございました。

令和5年度 練馬子ども議会の会議録作成にあたり、地方自治法第二百二十三条第2項の規定を準用し、署名する

練馬子ども議会議長

杉浦至

練馬子ども議会議員

小澤七菜

練馬子ども議会議員

門脇弘和

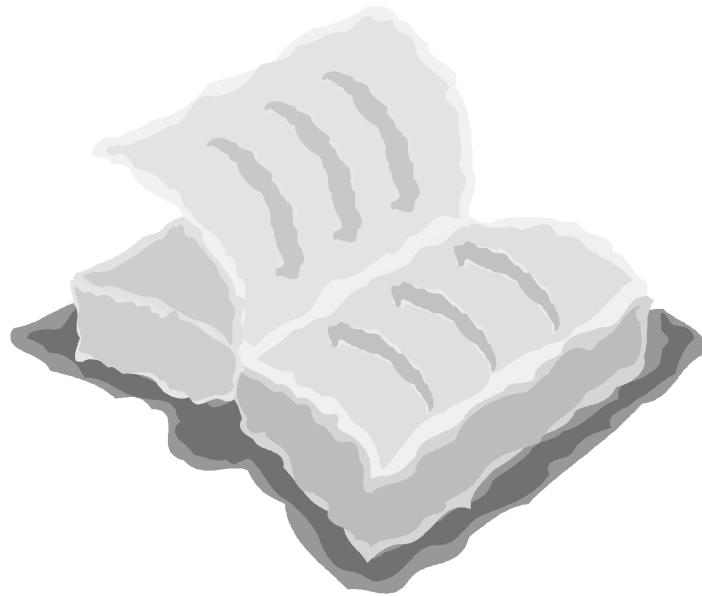
練馬子ども議会議員

吉井美和

練馬子ども議会議員

柿沼博美

資料



令和5年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

Keep Our Nature 豊かな自然を守り隊 グループ

テーマ：練馬区のゼロカーボンシティの実現を1秒でも早くするために

子ども議員の意見・提案	区の実現状況など（予定も含む）
<p>ごみの分別方法や資源ごみについて情報発信するために、公共施設や、電車やバスなどの交通機関でチラシの配布、ポスターの貼りだしをするのはどうか。</p>	<p>ごみの分別方法やリサイクルについての情報は、区民全体への周知が必要だと考えています。「資源・ごみ分別アプリ」やSNSを活用した情報発信を進めるとともに、分別に関する動画の作成など、多様な方法で区民への周知を行ってまいります。</p> <p>いただいた提案も含め、より良い周知方法について引き続き検討してまいります。</p> <p style="text-align: right;">（清掃リサイクル課）</p>
<p>ごみの重量を減らし、ごみを燃やした際に出る二酸化炭素の排出量を減らすために、イベントなどで生ごみなどに含まれる水分量を知ってもらう体験ブースを開くのはどうか。（水を含ませたスポンジと含んでいないスポンジを袋に入れ、重さを比較してもらうなど）</p>	<p>実際に体験をするという普及啓発は重要です。清掃事務所が区内の小学校4年生向けに行っている「環境学習」では、職員が小学生の前で水を含んだスポンジを絞り、絞る前と絞った後のそれぞれのスポンジの重さを量るという取り組みを行っています。この取り組みによって、水切りによるごみ減量の効果について知ってもらうことができます。また、イベント時には分別に関するクイズを行い、区民への啓発を行っています。引き続き体験型の普及啓発を行ってまいります。</p> <p style="text-align: right;">（清掃リサイクル課）</p>
<p>練馬区のゼロカーボンシティの実現が1秒でも早くなるようにできることを行動に移すことが必要。</p> <p>多くの区民の協力が必要なので、啓発は今後も続けてほしい。</p>	<p>一人ひとりの小さな取り組みが、大きな効果を生み出します。声に出して、多くの方々に呼び掛けていくことが大切です。</p> <p>今後も、より一層のゼロカーボンシティの実現に向けて、普及啓発に取り組んでまいります。</p> <p style="text-align: right;">（環境課）</p>

令和5年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

L e t ' s enjoy sports together～誰もが楽しめる環境創り～ グループ

テーマ：みどりの中で誰もがスポーツを楽しめるまち

子ども議員の意見・提案	区の実施状況など（予定も含む）
<p>体育館利用についての広報活動の効果をより高めるために、①若い世代の方に体育館の良いところを集めた動画を作成してもらい、SNSで拡散してもらおう。②運動効果についてチラシを配る。というのはいかがでしょうか。</p>	<p>体育館利用の広報活動については、既に様々な方法により実施していますが、いただいたご意見を踏まえ、効果をより高めるための取組を検討していきます。</p> <p style="text-align: right;">（スポーツ振興課）</p>
<p>障害がある方の利用を増やすために、①区立施設にポスターを貼り、体育館を利用したことがない人に対し、利用のしやすさを伝える。②送迎バスサービスを実施し不自由なく体育館に行けるようにする。③指導者を招いた個別指導を取り入れる。というのはいかがでしょうか。</p>	<p>スポーツ施設での障害のある人の受入れ体制の向上を図るため、東京都障害者スポーツ協会からのアドバイスを受けながら、施設職員の研修や障害のある人が参加しやすいイベントの実施等に取り組んでいます。</p> <p style="text-align: right;">（スポーツ振興課）</p>
<p>体育館の受け入れ人数に限界があるため、他にも様々なところでできる運動を促進する。そのために、各SSCと協力して、各地域でのスポーツの活性化と家でもできるスポーツの情報発信をする。また、スポーツ用具の貸出など環境の整備をするというのはいかがでしょうか。</p>	<p>区内のスポーツ関係4団体（練馬区体育協会、練馬区レクリエーション協会、ねりまSSC、練馬区スポーツ推進委員会）の協力により、年2回スポーツ情報誌を発行し、スポーツに関する情報の発信に努めています。また、参加者や場所などに応じて楽しむことができるレクリエーション性の高いニュースポーツ用具の貸し出しを行っており、需要に応じた充実を図っていきます。</p> <p style="text-align: right;">（スポーツ振興課）</p>
<p>利用者の年齢層を広げるために、親子でできるスポーツイベントや、保育施設や小中学校との連携企画などを実施するのはどうか。</p>	<p>各SSCでは、親子をはじめ、幼児から高齢者までを対象とする様々なスポーツ事業を実施しています。</p> <p>また、SSCと小中学校との連携企画として、学校の施設を使用しスポーツ事業を実施している事例もあります。</p> <p>今後も、SSCと連携しスポーツ事業の充実を努めていきます。</p> <p style="text-align: right;">（スポーツ振興課）</p>

令和5年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

I (いい) C (環境) T (タブレット) グループ

テーマ：教育ICTについて

子ども議員の意見・提案	区の実施状況など（予定も含む）
<p>ドングルはネットワークの接続が遅く、壊れやすいため、学校にWi-Fi環境をつくり、ドングルの貸出を実施してはどうか。</p>	<p>タブレットパソコンを安定して利用できるように、令和6年度から学校内のネットワークをWi-Fi化し、通信環境を強化します。</p> <p>(教育施策課)</p>
<p>学校によってICTの利用に差が出てしまっているため、各学校にICT委員などのICT活用を促進する組織を生徒、教員で設立し、組織間で交流するのはどうか。</p>	<p>教育委員会では、各学校のICT活用を促し、教員全体のICT活用能力の向上を図るため、教員向けの研修の実施、ICT支援員の派遣、活用事例の共有等を継続して実施します。</p> <p>また、各学校において児童生徒が主体的に設立するICT活用推進組織については、当該学校と教育委員会とで連携して支援できるよう検討します。</p> <p>(教育施策課)</p>
<p>タブレット端末のフィルタリングが強すぎることで授業の支障となることがあるので、TPOに合わせたフィルタリングの強度にできるようにするのはどうか。</p> <p>例えば、①教員にフィルタリングを解除する権限を与える。②フィルタリングの強度を時間帯で設定できるようにする。というのはどうか。</p>	<p>フィルタリングについては、区で一括して管理しているため、教員がフィルタリング管理機能を使うことはできません。学校から申請をいただきフィルタリング制限解除を行っています。</p> <p>また、フィルタリングについては、小学校、中学校それぞれの実態に合わせて、時間帯や曜日ごとに強度を変えるなど、柔軟な設定を検討します。</p> <p>(教育施策課)</p>

令和5年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

若人こそ本を！～L e t ' s 読書！～ グループ

テーマ：中高生に図書館に来てもらうにはどうしたらいいのかについて

子ども議員の意見・提案	区取組状況など（予定も含む）
<p>子供のうちから読書に親しみを持ってもらうために、ブックスタート事業を広く知ってもらえるよう、公園や民間施設のキッズスペースなどにポスターを貼るのはどうか。</p>	<p>ブックスタート事業は乳児にとって初めて本と触れ合う機会を提供しています。事業に参加された親子には、同時に図書館の利用登録も案内しており、本とともにすこやかに成長してほしいという思いで事業を行っています。ブックスタートの参加者は4カ月健診を受けた親子であるため、対象者が限定されています。そのため、対象者の目に触れる機会の多い保健相談所、子ども家庭支援センター、子育てのひろば「びよびよ」等に絞って周知を行っているところです。</p> <p>いただいた提案を参考にして、より効果的な周知方法を引き続き検討していきます。</p> <p style="text-align: right;">（光が丘図書館）</p>
<p>子供たちの読書への苦手意識をなくし、習慣をつけるために、小学校での読書旬間や学校図書を利用したイベントなどの活動を多く行うというのはどうか。</p>	<p>区立図書館では学校での読書活動を支援するために、年間を通じて団体貸出、図書館見学の受入れ、おはなし会、ブックトーク、本の探検ラリー等の事業を行っています。この他、「よんでみようこんなほん」、「ほんだな」、「コンパス」といった読書案内や「としょかんへおいでよ」による図書館利用案内を配布しています。</p> <p>子供たちの読書活動がより実り豊かなものになるようこれからもイベントを充実していきます。</p> <p style="text-align: right;">（光が丘図書館）</p>
<p>図書館のイベントを知ってもらうために、SNSを活用してイベントを宣伝するというのはどうか。</p>	<p>図書館の取組については、区報、図書館ホームページやYouTubeなどで周知を行っているところです。ご提案いただいたSNSの活用を含めて、より効果的な周知方法を検討していき、より多くの方々に図書館のイベントを知っていただけるよう取り組んでまいります。</p> <p style="text-align: right;">（光が丘図書館）</p>

子ども議員へのアンケート集計結果

配布 35 回収 28

※各欄の%は回答数に対する割合とする

【子ども議会に参加した動機について】

(問1) 子ども議員になった理由を次のうちから一つだけ選んでください。

先生にすすめられて(学校の推薦)	13	46%
面白そうだったから	10	36%
練馬区に興味・関心があったから	1	4%
以前、参加したがまたやってみたいと思ったから	0	0%
自分の意見を発言したいと思ったから	1	4%
その他	3	11%
計	28	100%

〔「その他」の回答〕

- ・子ども議会でどのような活動をしているか興味があったから。今後の人生に活かしたいと思ったから。
- ・生徒会内での推薦だったから。
- ・社会科、公民分野の勉強になる。

【オリエンテーションについて】第1回学習会(7月1日)

(問2-1) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	8	29%
良かった	14	50%
どちらでもない	4	14%
あまり良くなかった	2	7%
良くなかった	0	0%
計	28	100%

(問2-2) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

内容が充実していた	5	7%
良い経験となった	14	19%
他校の生徒と交流できた	18	24%
区政、区議会制度のことがよくわかった	18	24%
選挙制度のことがよくわかった	16	21%
その他	4	5%
計	75	100%

〔「その他」の回答〕

- ・係の方がフレンドリーに接してくださり、とてもやりやすかった。
- ・第1回の学習会はお休みしたが、後から資料を送っていただき第2回からスムーズに参加できた。
- ・グループのメンバーがよかった。
- ・区の教育ICT担当の方とお話しできたところ。

(問2-3) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

部活などとの調整が大変だった	13	46%
他校の生徒との交流がなかった	5	18%
区政・区議会制度のことがよくわからなかった	1	4%
時間が足りなかった	8	29%
その他	1	4%
計	28	100%

〔「その他」の回答〕

- ・緊張して自分の意見を十分言えなかった。

【地域調査について】第2回学習会(7月21日)

(問3-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	16	57%
良かった	7	25%
どちらでもない	4	14%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	1	4%
計	28	100%

(問3-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

充実していた	15	26%
良い経験となった	20	34%
政策提言発表の参考になった	18	31%
その他	5	9%
計	58	100%

〔「その他」の回答〕

- ・班員と仲良くなれた。
- ・グッズをたくさんもらった。

(問3-3)良くなかった点は何ですか(複数回答あり)

調査の時間が少なかった	9	60%
別の場所を調査したかった	3	20%
その他	3	20%
計	15	100%

〔「その他」の回答〕

- ・欠席しました。

【政策提言作成(グループ討議)について】第3回学習会(7月25日)

(問4-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	15	54%
良かった	12	43%
どちらでもない	1	4%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	28	100%

(問4-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見を発言できた	14	13%
他の人の意見を聞いた	22	21%
みんなで協力できた	23	22%
十分に検討できた	15	14%
グループでうまく意見をまとめることができた	17	16%
区の現状を知ることができた	12	11%
その他	2	2%
計	105	100%

〔「その他」の回答〕

- ・スライドと原稿を時間内に作り終えることができた。
- ・前回休んでいたが、どんなことをしていたか詳しくグループのメンバーが教えてくれた。

(問4-3)良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見を発言できなかった	3	14%
みんなで協力できなかった	1	5%
話し合いの時間が足りなかった	13	62%
意見がうまくまとまらなかった	3	14%
その他	1	5%
計	21	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

・原稿作成の時間が余った。

【子ども議会開会宣言、意見交換会、第4回学習会】(7月31日)

(問5-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	21	75%
良かった	6	21%
どちらでもない	0	0%
あまり良くなかった	1	4%
良くなかった	0	0%
計	28	100%

(問5-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができた	20	19%
テーマごとの区の現状、課題が理解できた	22	20%
良い経験となった	23	21%
他のグループの考えを知ることができた	23	21%
意見交換の結果を、提言に反映できた	20	19%
その他	0	0%
計	108	100%

(問5-3)良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができなかった	4	31%
テーマごとの区の現状、課題が理解できなかった	1	8%
他のグループの考えが理解できなかった	2	15%
意見交換の結果を、政策提言に反映できなかった	2	15%
その他	4	31%
計	13	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

・返答しにくい意見がきたこと。

・他のグループの発表で疑問があったが、質問できなかった。

【政策提言発表について】(8月3日)

(問6-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	24	86%
良かった	4	14%
どちらでもない	0	0%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	28	100%

(問6-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見がうまく発表できた	25	27%
教育長から講評をもらった	10	11%
良い経験となった	28	30%
実際の議場でできた(開会宣言)	15	16%
議員の役割を理解できた	16	17%
計	94	100%

(問6-3)良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

形式的だった	11	58%
うまく発表できなかった	3	16%
時間がなかった	1	5%
その他	4	21%
計	19	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・話を聞くときに少し姿勢が崩れてしまった。
- ・噛んでしまうところが多々あり、聞き取りづらい発表になってしまった。

【練馬子ども議会を振り返って】

(問7)子ども議会の期間(5日間)について、どのように感じましたか？

長い	1	4%
少し長い	0	0%
丁度良い	13	46%
少し短い	8	29%
短い	6	21%
計	28	100%

「長い」「少し長い」を選んだ理由

- ・過去の実績がわからなかったため、回数が多く感じた。

「丁度良い」を選んだ理由

- ・調査して発表原稿をまとめるまでの期間が短すぎず、ちょうど良かった。
- ・時間内にやるべきことをしっかりとできていたと思ったため。
- ・充実していて、他校の生徒とも積極的に関われたから。
- ・日数が多くても部活との調整が難しくなってしまうから。また、期間が短かければ他校の生徒と深く関われないから。
- ・政策提言発表までの期間内で内容もまとまったから。

「少し短い」「短い」を選んだ理由

- ・5日間で意見をまとめ、発表できたのは良かったが、仲良くなったから、お別れするのが早いのが悲しかった。
- ・スライドをつくったり、地域調査をする時間がもう少しあれば、より具体的な政策提言ができたかもしれない。

- ・同じグループの人も違うグループの人も関係なく楽しく関われたし、個人的にもう少し同じ子ども議員のメンバーで楽しく過ごしたいと思ったから。
- ・最初はみんな硬くなってしまい、話し合いが上手く進まなかったり、緊張してしまっただが、段々と打ち解けていき、みんなで協力して楽しく話し合いができるようになり、あっという間に時間が過ぎてしまったと感じたため。
- ・考えることが多く時間が足りないように感じたため。

(問8) 全体を通して練馬子ども議会は皆さんの政策提言を十分に表明する場となりましたか？

そう思う	18	64%
まあそう思う	10	36%
あまりそう思わない	0	0%
そう思わない	0	0%
わからない	0	0%
計	28	100%

「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・自分たちで情報を集めたり、原稿をつくって、言いたいことを言えたから。
- ・リーダーに頼ってしまうことがあった。
- ・疑問に思ったことをみんなで共有し、考えていけて、伝えたいことをしっかり表明できた。
- ・他校の生徒と協力することで1人では思いつかないことも表明することができた。
- ・意見交換会ででた問題を解決して発表することができたのは良かった。
- ・自分が実際に見て、聞いて、感じたことを上手く言葉にまとめて言えた。
- ・準備してきたことを十分に発揮できた。
- ・もっと突っ込んだことを言いたかった。
- ・時間も十分だったし、しっかりとした調査を行うことができたため、とてもいい経験になり、参加してよかったと思う。

(問9-1) 今後子ども議員の経験を生かせる(または、生かしたい)と思いますか？

そう思う	27	96%
まあそう思う	1	4%
あまりそう思わない	0	0%
そう思わない	0	0%
わからない	0	0%
計	28	100%

「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・学校の代表として貴重な経験ができたから。
- ・普通は経験できないことまで経験させてもらったので、自分の将来に活かせると思ったから。
- ・子ども議員で学んだ区の現状はこれからも知っている必要があると思ったから。
- ・普段は滅多には入れない場所に行ったり、調査することができたから。
- ・コミュニケーションの大切さを学び、学校での人間関係をつくるのにも必要だと思ったから。
- ・発表資料の制作、質疑応答の仕方、自分の意見の発表等、今後学校や他の場面でも活かせることが多くあったから。
- ・自分では思いつかない意見がたくさんあり、自分の考え方を広げてくれたため。
- ・普段関わることのない他校の生徒と同じ議題について話し合い、コミュニケーションを鍛えることができた。
- ・大勢の前で自分の意見を発表することや、1つの目的に向けてみんなで議論しまとめていくことなど、なかなか経験できないことができたから。
- ・どれもしたことのない新しい経験ばかりで、活かせることばかりだった。
- ・社会科、公民分野の勉強になった。
- ・議長という大切な立場と、議場や全員協議会室で話したことは一生の経験につながるから。

(問10)今年度は教育ICT端末を使用した初の練馬子ども議会となりました。教育ICTを活用した学習会等について感想をお聞かせください。

- ・教育ICTを使うことにより、自グループの意見をグループ全体で共有しやすかったり、他グループの意見なども知ることができ良かった。
- ・クラスルームをはじめとする様々な機能が使え、グループ内で意見やスライド、台本などがリアルタイムで共有でき、円滑に学習会が進められた。
- ・付箋を使って意見を出したり、原稿を作成するときはタブレットがやりやすいが、資料などは紙の方が良いと思うので、併用していくのが良いと思う。
- ・議会が円滑になった。
- ・ICTを使う方が効率的で良いと思った。
- ・会わなくても区クラスルームで意見を言ったり、資料を共有したりできてとても便利で良いと思った。
- ・ジャムボードを使った話し合いでは気軽に意見が言えたり、意見をまとめやすかったため良かった。
- ・前よりICTについてよくわかるようになったので良かった。
- ・とても効率的に作業を進めることができ、有意義に使うことができた。

(問11)最後に「練馬子ども議会」について何でも意見を書いてください。

- ・子ども議会の存在をもっとみんなに知ってもらいたいと思った。
- ・子供の意見を取り入れる大切な機会だと思った。
- ・区をより良くするために何をすべきかを1人1人がしっかり向き合える、貴重な経験ができる場である。
- ・話したこともない他校の方と5日間で、政策提言発表をするまでに仕上げられた経験はとても貴重なものだった。
- ・子供だけでなく、職員の方と協力できて良かった。グループのみんなと休憩時間を通して仲良くなれて本当に楽しかった。
- ・普段は体験できないようなこと(他校の生徒と交流、タブレット端末を利用した発表など)をすることができ、とても楽しかった。
- ・とても充実した5日間だった。
- ・他校の人と関わる良い機会だと思ったので、これからも続けてほしい。
- ・これからも続けてほしい。素晴らしい体験をさせてもらった。

練馬子ども議会プロジェクトチーム（PT）について

1 設置目的

練馬子ども議会学習会で政策提言発表内容等について子ども議員が上手く議論できるよう、青少年課職員とともに進行管理や助言をするために、政策提言発表テーマに関する所管部から7名の職員を選出し、PTを設置した。

2 プロジェクトチームの担当内容

- (1) 学習会のグループ学習の際、各グループに入り、青少年課職員とともにタイムスケジュールに沿った学習会の進行管理をする。
- (2) グループの扱うテーマに関する専門的な知識についての質問に対する回答や、情報の調べ方についての助言をする。
- (3) 意見が上手くまとまらず進行が滞った時は、腹案を提示するなどしてグループの意見をまとめる。
- (4) 子ども議員の提言内容がグループの扱うテーマから外れたものである場合には、グループの扱うテーマとなるよう示唆する。

3 プロジェクトチームメンバー

<区政全般に関する分野>

環境部 環境課 地球温暖化対策係 係長	岩 方 博 行
環境部清掃リサイクル課清掃事業係	皆 川 萌 美
地域文化部 スポーツ振興課 事業係 係長	高 野 直 子
地域文化部 スポーツ振興課 振興係 係長	内 野 清 行

<教育・こども分野>

教育振興部 教育施策課 教育ICT環境整備係	柏 木 美 和
教育振興部 教育施策課 教育ICT環境整備係	河 合 千 秋
教育振興部 光が丘図書館 事業統括係	柴 崎 なつき
教育振興部 光が丘図書館 子供事業統括係	和 田 洵

練馬子ども議会報告書

令和5年(2023年)12月 発行

編集発行 練馬区教育委員会事務局こども家庭部青少年課

〒176-8501 練馬区豊玉北6-12-1

TEL 03-5984-1292 (直通)

Mail : SEISHONEN03@city.nerima.tokyo.jp

ホームページ : <http://www.city.nerima.tokyo.jp>
